



茨城県

茨城県景気ウォッチャー調査

(平成20年9月調査分)

《景気の現状判断DI》

	平成20年6月	平成20年9月	前回調査比
茨城県	30.2	32.2	+2.0
県北地域	32.5	33.5	+1.0
県央地域	30.5	34.6	+4.1
鹿行地域	25.4	28.6	+3.2
県南地域	34.2	32.1	2.1
県西地域	28.4	31.7	+3.3

《景気の先行き判断DI》

	平成20年6月	平成20年9月	前回調査比
茨城県	31.3	35.4	+4.1
県北地域	34.6	39.4	+4.8
県央地域	30.9	37.5	+6.6
鹿行地域	27.1	32.3	+5.2
県南地域	29.6	30.4	+0.8
県西地域	34.3	37.1	+2.8

平成20年10月

茨城県企画部統計課

目 次

調査の概要	1
調査結果の概要	3
1 全県の動向	3
(1) 景気の現状判断D I	3
(2) 景気の先行き判断D I	4
2 地域別の動向	5
(1) 景気の現状判断D I	5
(2) 景気の先行き判断D I	7
3 回答率	10
景気の判断コメント	11
1 景気の現状判断コメント	11
2 景気の先行き判断コメント	24
3 その他の意見	34

問い合わせ先

統計課企画分析グループ TEL:029-301-2642

ホームページアドレス

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/bukka/watch/index.html>

調査の概要

1 調査の目的

経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料とする。

2 調査の範囲

(1)対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市及び郡は以下のとおりである。 ※平成20年9月30日現在

地域	市及び郡
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、那珂郡、久慈郡
県央地域	水戸市、笠間市、小美玉市、東茨城郡
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡
県西地域	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

(2)調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

【地域別・業種別調査客体数】

業種名	具	例	県北地域	県央地域	鹿行地域	県南地域	県西地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等		38	39	38	37	36	188
企業関連	製造業（食料品、一般機械器具等）、建設業、金融業		17	16	17	18	19	87
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等		5	5	5	5	5	25
	計		60	60	60	60	60	300

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) のコメント（理由）
- (3) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (4) (3) のコメント（理由）
- (5) その他景気に関する意見（自由回答）

4 調査月及び調査期間

調査月は3月、6月、9月及び12月の年4回である。平成20年9月調査の調査期間は平成20年8月28日から平成20年9月30日である。

5 利用上の注意

- (1) 景気動向指数 (D I) は景気の方角性を判断するものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

景気動向指数(DI)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比 (%) に乗じて、景気動向指数 (D I) を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

2 具体例

回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、

$$(1 \times 15.0) + (0.75 \times 27.0) + (0.5 \times 25.0) + (0.25 \times 11.0) + (0 \times 22.0) = 50.5 \text{ となる。}$$

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は、 $(0.5 \times 100) = 50$ となることから、50を上回っているときは、景気の上昇局面にあり、また50を下回っているときは、景気の下降局面にあるといえる。

調査結果の概要

1 全県の動向

(1) 景気の現状判断DI

3か月前と比較した景気の現状判断DIは6月調査分より2.0ポイント上昇し、32.2となった。「やや悪くなっている」の回答構成比が増加したものの、「悪くなっている」の回答構成比が減少し、「やや良くなっている」の回答構成比が増加したため、平成14年12月の調査開始以来の最低値であった6月調査分を上回ったが、それに次ぐ調査開始以来2番目に低い値であり、横這いを表す50を5期連続で下回った。業種別にみると、家計動向関連DI及び企業動向関連DIは6月調査分を上回ったが、雇用関連DIは6月調査分を下回った。

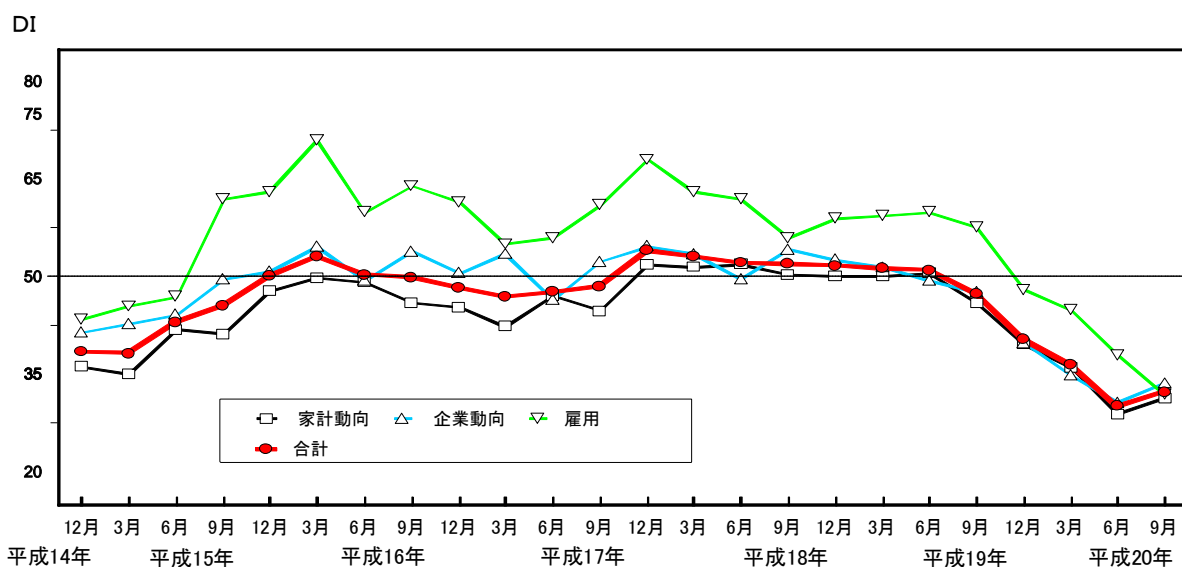
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成19年 9月	平成19年 12月	平成20年 3月	平成20年 6月	平成20年 9月
合計		47.4	40.4	36.5	30.2	32.2
家計動向関連		46.0	39.7	36.1	28.9	31.4
小売関連		48.6	38.4	35.8	27.7	28.5
飲食関連		45.0	37.5	32.1	26.2	30.0
サービス関連		42.5	40.6	35.8	29.7	34.5
住宅関連		58.3	47.2	50.0	38.9	30.6
企業動向関連		47.7	39.8	34.9	30.7	33.7
農林水産業		56.3	37.5	43.8	43.8	40.6
製造業		46.3	38.3	35.3	30.2	35.6
非製造業		47.7	42.5	32.0	28.2	29.0
雇用関連		57.6	48.0	45.0	38.0	32.0

表1-2 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成19年 9月	3.8%	16.8%	49.1%	25.8%	4.5%
平成19年 12月	1.4%	17.2%	35.1%	34.4%	11.9%
平成20年 3月	0.3%	8.2%	40.1%	39.8%	11.6%
平成20年 6月	0.7%	4.4%	30.6%	43.5%	20.7%
平成20年 9月	0.7%	7.2%	29.3%	45.5%	17.2%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは6月調査分より4.1ポイント上昇し、35.4となった。「やや悪くなっている」及び「悪くなっている」の回答構成比が減少し、「やや良くなっている」回答構成比が増加したため、平成14年12月の調査開始以来の最低値であった6月調査分を上回ったが、横這いを表す50を4期連続で下回った。業種別にみると、家計動向関連DI及び雇用関連DIは6月調査分を上回ったが、企業動向関連DIは6月調査分を下回った。

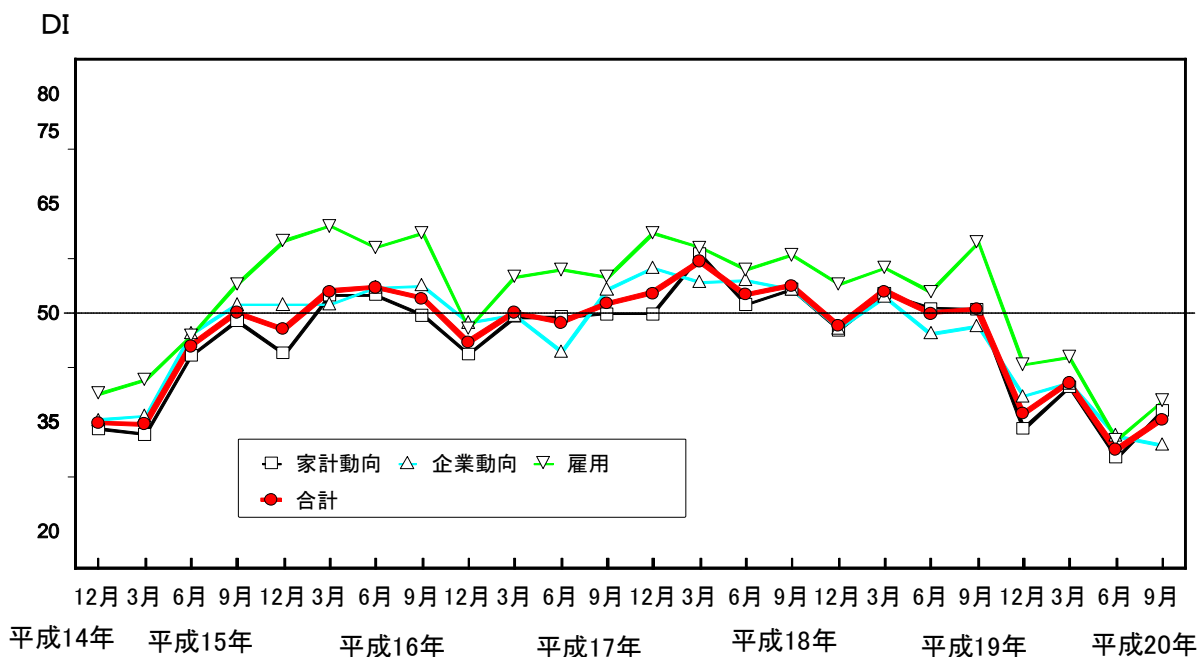
表1 - 3 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成19年	平成19年	平成20年	平成20年	平成20年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		50.6	36.2	40.4	31.3	35.4
家計動向関連		50.6	34.2	39.9	30.2	36.7
小売関連		47.2	35.2	36.5	26.7	33.5
飲食関連		55.0	36.3	36.9	28.6	32.5
サービス関連		52.5	31.2	43.0	32.2	40.5
住宅関連		50.0	47.2	47.2	44.4	38.9
企業動向関連		48.3	38.6	40.4	33.3	32.0
農林水産業		53.1	40.6	53.1	25.0	46.9
製造業		46.8	37.8	39.7	33.9	30.3
非製造業		49.2	39.2	38.3	34.7	30.6
雇用関連		59.8	43.0	44.0	32.6	38.0

表1 - 4 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成19年 9月	3.4%	23.4%	49.5%	19.6%	4.1%
平成19年 12月	0.0%	8.4%	42.5%	34.7%	14.4%
平成20年 3月	0.3%	11.9%	43.9%	36.7%	7.1%
平成20年 6月	1.4%	5.4%	30.3%	42.9%	20.1%
平成20年 9月	1.4%	7.2%	39.3%	35.9%	16.2%

図1 - 2 景気の先行き判断DIの推移



2 地域別の動向

(1) 景気の現状判断DI

県北地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは33.5となった。6月調査分より1.0ポイント上昇したものの、横這いを表す50を6期連続で下回った。業種別にみると、企業動向関連DI及び雇用関連DIは6月調査分を上回ったが、家計動向関連DIは6月調査分を下回った。

表2-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成19年	平成19年	平成20年	平成20年	平成20年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		47.5	40.9	34.6	32.5	33.5
家計動向関連		44.7	38.6	30.9	32.6	30.4
企業動向関連		51.5	44.1	38.2	30.9	38.2
雇用関連		55.0	45.0	50.0	37.5	40.0

表2-2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 9月	3.3%	20.0%	46.7%	23.3%	6.7%
平成19年12月	0.0%	18.2%	41.8%	25.5%	14.5%
平成20年 3月	0.0%	5.0%	43.3%	36.7%	15.0%
平成20年 6月	0.0%	5.3%	36.8%	40.4%	17.5%
平成20年 9月	1.7%	3.4%	39.0%	39.0%	16.9%

県央地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは34.6となった。6月調査分より4.1ポイント上昇したものの、横這いを表す50を5期連続で下回った。また、現状判断DIは全地域を通じて最も高かった。業種別にみると、家計動向関連DI及び企業動向関連DIは6月調査分を上回ったが、雇用関連DIは6月調査分を下回った。

表2-3 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成19年	平成19年	平成20年	平成20年	平成20年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		45.3	35.9	36.4	30.5	34.6
家計動向関連		45.9	34.7	34.7	28.9	35.9
企業動向関連		42.2	33.9	37.5	29.7	32.8
雇用関連		50.0	50.0	45.0	45.0	30.0

表2-4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 9月	1.7%	10.3%	58.6%	25.9%	3.4%
平成19年12月	0.0%	9.1%	36.4%	43.6%	10.9%
平成20年 3月	0.0%	7.0%	38.6%	47.4%	7.0%
平成20年 6月	0.0%	3.4%	28.8%	54.2%	13.6%
平成20年 9月	1.7%	8.3%	26.7%	53.3%	10.0%

鹿行地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは28.6となった。6月調査分より3.2ポイント上昇したものの、横這いを表す50を4期連続で下回った。また、現状判断DIは全地域を通じて最も低かった。業種別にみると、家計動向関連DI及び企業動向関連DIは6月調査分を上回ったが、雇用関連DIは6月調査分を下回った。

表2 - 5 景気の現状判断DI

分野	調査日時				
	平成19年 9月	平成19年 12月	平成20年 3月	平成20年 6月	平成20年 9月
合計	50.8	43.3	34.3	25.4	28.6
家計動向関連	48.0	40.1	34.5	22.3	26.5
企業動向関連	54.4	50.0	33.8	29.4	32.8
雇用関連	60.0	45.0	35.0	35.0	30.0

表2 - 6 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 9月	3.4%	22.0%	50.8%	22.0%	1.7%
平成19年12月	3.3%	20.0%	35.0%	30.0%	11.7%
平成20年 3月	0.0%	3.4%	47.5%	32.2%	16.9%
平成20年 6月	0.0%	1.7%	28.8%	39.0%	30.5%
平成20年 9月	0.0%	5.5%	25.5%	47.3%	21.8%

県南地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは32.1となった。6月調査分より2.1ポイント低下し、横這いを表す50を4期連続で下回った。また、これは平成14年12月の調査開始以来最も低い値であり、6月調査分に続き2期連続で最低値を更新した。業種別にみると、企業動向関連DIは6月調査分を上回ったが、家計動向関連DI及び雇用関連DIは6月調査分を下回った。

表2 - 7 景気の現状判断DI

分野	調査日時				
	平成19年 9月	平成19年 12月	平成20年 3月	平成20年 6月	平成20年 9月
合計	50.0	43.6	41.1	34.2	32.1
家計動向関連	53.0	45.6	46.5	37.2	29.5
企業動向関連	40.3	35.9	26.4	25.0	37.5
雇用関連	68.8	55.0	55.0	45.0	30.0

表2 - 8 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 9月	7.3%	18.2%	43.6%	29.1%	1.8%
平成19年12月	3.6%	25.5%	27.3%	29.1%	14.5%
平成20年 3月	1.7%	11.9%	40.7%	40.7%	5.1%
平成20年 6月	1.7%	8.3%	33.3%	38.3%	18.3%
平成20年 9月	0.0%	8.9%	25.0%	51.8%	14.3%

県西地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは31.7となった。6月調査分より3.3ポイント上昇したものの、横這いを表す50を5期連続で下回った。業種別にみると、家計動向関連DI及び雇用関連DIは6月調査分を上回ったが、企業動向関連DIは6月調査分を下回った。

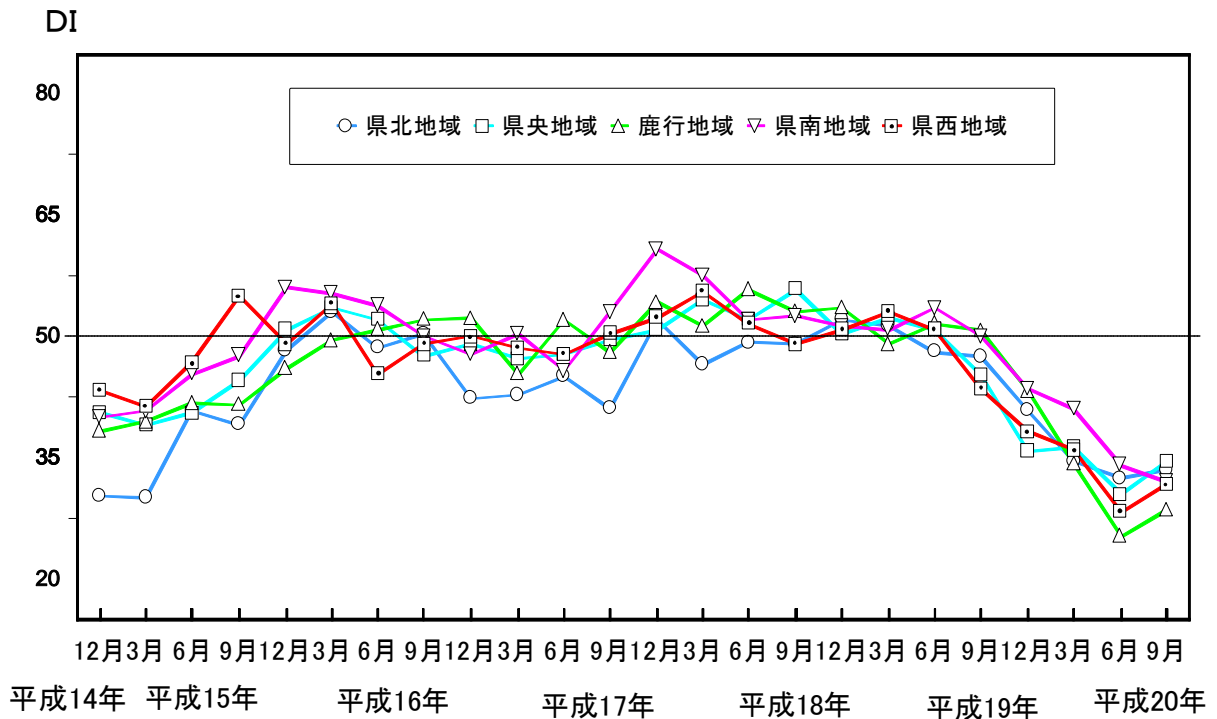
表2 - 9 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成19年	平成19年	平成20年	平成20年	平成20年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		43.6	38.3	36.0	28.4	31.7
家計動向関連		38.9	39.6	34.0	23.6	34.0
企業動向関連		50.0	34.2	38.9	38.2	27.6
雇用関連		56.3	45.0	40.0	25.0	30.0

表2 - 10 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 9月	3.4%	13.6%	45.8%	28.8%	8.5%
平成19年12月	0.0%	13.3%	35.0%	43.3%	8.3%
平成20年 3月	0.0%	13.6%	30.5%	42.4%	13.6%
平成20年 6月	1.7%	3.4%	25.4%	45.8%	23.7%
平成20年 9月	0.0%	10.0%	30.0%	36.7%	23.3%

図2 - 1 地域別現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断DI

県北地域

3か月先の景気の先行き判断DIは39.4となった。6月調査分より4.8ポイント上昇したものの、横這いを表す50を4期連続で下回った。また、先行き判断DIは全地域を通じて最も高かった。業種別にみると、家計動向関連DI及び雇用関連DIは6月調査分を上回ったが、企業動向関連DIは6月調査分を下回った。

表2 - 11 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成19年	平成19年	平成20年	平成20年	平成20年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		53.8	34.5	40.0	34.6	39.4
家計動向関連		53.9	34.8	37.5	31.9	40.5
企業動向関連		52.9	32.4	47.1	39.7	35.3
雇用関連		55.0	40.0	35.0	37.5	45.0

表2 - 12 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 9月	1.7%	30.0%	53.3%	11.7%	3.3%
平成19年12月	0.0%	3.6%	43.6%	40.0%	12.7%
平成20年 3月	0.0%	15.0%	35.0%	45.0%	5.0%
平成20年 6月	1.8%	5.3%	42.1%	31.6%	19.3%
平成20年 9月	3.4%	6.8%	45.8%	32.2%	11.9%

県央地域

3か月先の景気の先行き判断DIは37.5となった。6月調査分より6.6ポイント上昇したものの、横這いを表す50を5期連続で下回った。業種別にみると、家計動向関連DIは6月調査分を上回ったが、企業動向関連DI及び雇用関連DIは6月調査分を下回った。

表2 - 13 景気の先行き判断DI

分野	調査日時 平成19年 9月	平成19年 12月	平成20年 3月	平成20年 6月	平成20年 9月
合計	47.0	34.5	39.9	30.9	37.5
家計動向関連	44.6	29.9	39.6	30.9	44.9
企業動向関連	45.3	42.9	39.1	29.7	21.9
雇用関連	70.0	45.0	45.0	35.0	30.0

表2 - 14 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 9月	3.4%	17.2%	46.6%	29.3%	3.4%
平成19年12月	0.0%	10.9%	34.5%	36.4%	18.2%
平成20年 3月	0.0%	8.8%	50.9%	31.6%	8.8%
平成20年 6月	0.0%	8.5%	25.4%	47.5%	18.6%
平成20年 9月	0.0%	8.3%	43.3%	38.3%	10.0%

鹿行地域

3か月先の景気の先行き判断DIは32.3となった。6月調査分より5.2ポイント上昇したものの、横這いを表す50を4期連続で下回った。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが6月調査分を上回った。

表2 - 15 景気の先行き判断DI

分野	調査日時 平成19年 9月	平成19年 12月	平成20年 3月	平成20年 6月	平成20年 9月
合計	50.4	37.1	41.5	27.1	32.3
家計動向関連	48.0	34.2	40.5	25.0	27.9
企業動向関連	54.4	41.2	42.6	30.9	40.6
雇用関連	55.0	45.0	45.0	30.0	35.0

表2 - 16 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 9月	1.7%	27.1%	45.8%	22.0%	3.4%
平成19年12月	0.0%	6.7%	45.0%	38.3%	10.0%
平成20年 3月	1.7%	8.5%	52.5%	28.8%	8.5%
平成20年 6月	1.7%	6.8%	16.9%	47.5%	27.1%
平成20年 9月	1.8%	3.6%	40.0%	30.9%	23.6%

県南地域

3か月先の景気の先行き判断DIは30.4となった。6月調査分より0.8ポイント上昇したものの、横這いを表す50を4期連続で下回った。また、先行き判断DIは全地域を通じて最も低かった。業種別にみると、企業動向関連DI及び雇用関連DIは6月調査分を上回ったが、家計動向関連DIは6月調査分を下回った。

表2 - 17 景気の先行き判断DI

分野	調査日時				
	平成19年 9月	平成19年 12月	平成20年 3月	平成20年 6月	平成20年 9月
合計	53.6	39.5	36.9	29.6	30.4
家計動向関連	56.1	40.4	39.6	31.8	28.8
企業動向関連	47.2	35.9	29.2	25.0	31.9
雇用関連	62.5	45.0	45.0	30.0	35.0

表2 - 18 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 9月	10.9%	20.0%	47.3%	16.4%	5.5%
平成19年12月	0.0%	16.4%	41.8%	25.5%	16.4%
平成20年 3月	0.0%	10.2%	37.3%	42.4%	10.2%
平成20年 6月	1.7%	0.0%	31.7%	48.3%	18.3%
平成20年 9月	0.0%	7.1%	25.0%	50.0%	17.9%

県西地域

3か月先の景気の先行き判断DIは37.1となった。6月調査分より2.8ポイント上昇したものの、横這いを表す50を6期連続で下回った。業種別にみると、家計動向関連DI及び雇用関連DIは6月調査分を上回ったが、企業動向関連DIは6月調査分を下回った。

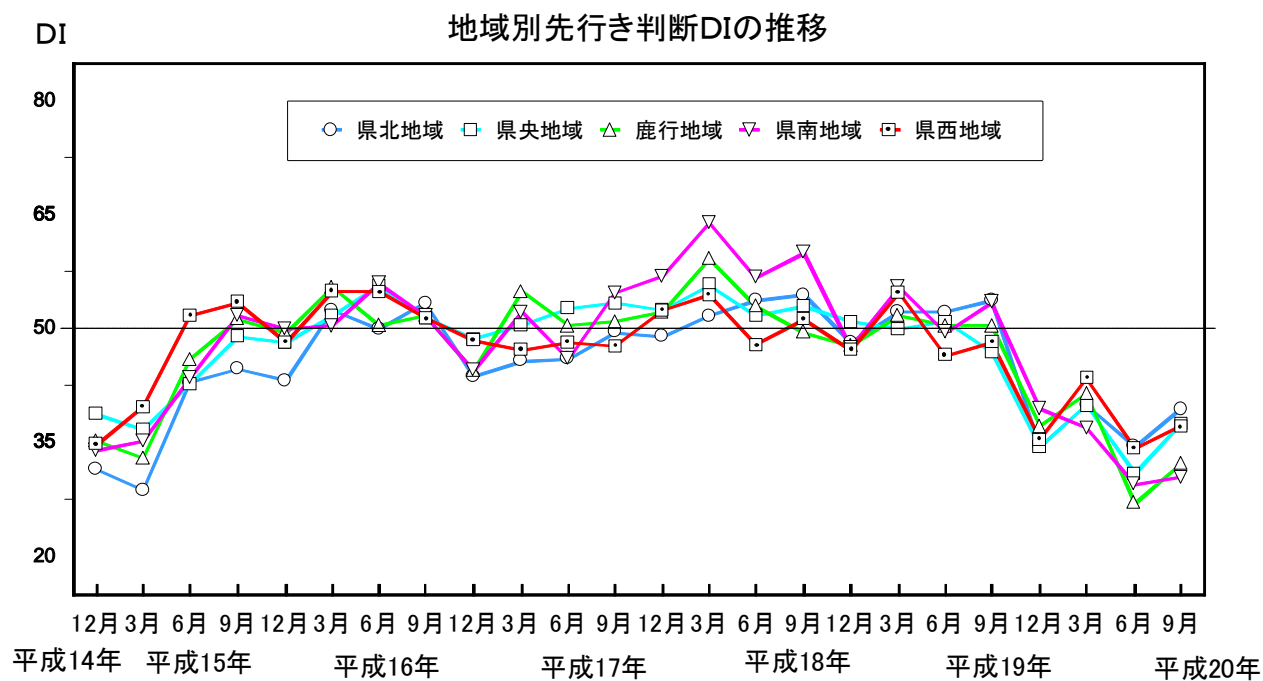
表2 - 19 景気の先行き判断DI

分野	調査日時				
	平成19年 9月	平成19年 12月	平成20年 3月	平成20年 6月	平成20年 9月
合計	48.3	35.4	43.6	34.3	37.1
家計動向関連	50.7	31.9	42.4	31.3	39.6
企業動向関連	42.1	40.8	44.4	40.8	30.3
雇用関連	56.3	40.0	50.0	31.3	45.0

表2 - 20 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 9月	0.0%	22.0%	54.2%	18.6%	5.1%
平成19年12月	0.0%	5.0%	46.7%	33.3%	15.0%
平成20年 3月	0.0%	16.9%	44.1%	35.6%	3.4%
平成20年 6月	1.7%	6.8%	35.6%	39.0%	16.9%
平成20年 9月	1.7%	10.0%	41.7%	28.3%	18.3%

図2 - 2 地域別先行き判断DIの推移



3 回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	290 人	96.7%
県北地域	60 人	59 人	98.3%
県央地域	60 人	60 人	100.0%
鹿行地域	60 人	55 人	91.7%
県南地域	60 人	56 人	93.3%
県西地域	60 人	60 人	100.0%

Ⅲ 景気の判断コメント — 1 景気の現状判断コメント

(1) 県北地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	企業	水産業関係者	県北地域の天津港は今年の年始めより好漁が続き、まき網漁業、小型曳網漁業、底曳網漁業等いずれも良い成績となり、地元の水産関係全体に活気を与えている。県北地域の水産関係者の景気は上昇中である。
やや良く	家計	和食食堂	今年は、地元の多くの企業に長い夏休みがあったとのことだが、その割には遠出する人が少なかったらしく、例年より来客数も売上げも増加した。連日のような多雨・落雷（ゲリラ豪雨）がなければ、来客数も売上げももう少し増加したと思う。
	雇用	学校就業関係者	6月末から本校生徒への求人受付が始まったが、企業からの求人数が増えている。あくまでも来年4月採用の求人であるが、やや良くなっているように感じる。
変わらな	家計	コンビニエンスストア	相次ぐ物価上昇に客が慣れてきた面もあると思うが、依然として安価な商品を好む傾向が強く、消費に対しては消極的になってきていると感じる。連休時の動きも「安・近・短」傾向が強く、ガソリン価格の高騰から遠出には慎重になっているようである。したがって、6月と比べても消費者心理はほとんど変化しておらず、景気は変化していない。
		家電販売店	顧客の様子に変化はない。北京オリンピック閉幕後も、薄型テレビの売上げは堅調である。しかし、販売競争が厳しく、利益確保が難しい。
		自動車販売店	販売台数も在庫台数も売上げも横這いで変わらない。
		農産物直売所	客単価及び売上げとも昨年並みである。
		レストラン	売上げがそれほど変わっていない。
		観光型ホテル	前年並みの売上げは達成できた。
		観光型ホテル	宿泊及び日帰り予約とも、前年同期とほぼ変わらない。
		旅行代理店	利用単価が変わらない。
		ドライブイン	3か月前と同様に、相変わらず常連客の来店が減少傾向にあり、みやげを購入することも控えめである。
		ゴルフ場	「原油の高騰により、消費者はガソリンスタンドの利用も控えている傾向にある」という話を取引先から聞いた。また、株価も低迷しており、明るい話題が少ない中、当社においても前年の同時期の実績を確保するには至らなかった。ただ、客単価については多少上向きの傾向で推移している。近隣の同業他社では料金のダンピングが相変わらず進んでいる。この業界において厳しい時期である8月を乗り切ることができたが、客をゴルフ場に積極的に向かわせる方策等に課題を残した。8月は天気予報に基づく人の動きが顕著にでた月だった。今後のゴルフシーズンに向けて、料金の変更とそれによる人の動きに期待したい。
		パチンコ店	土・日に関しては夏のイベント時の来客数の減少を感じたが、他の曜日については以前とあまり変わらない。
		レジャー施設	客単価、客の滞在時間等に変化が見られない。
		美容室	地域性もあると思うが、当店は固定客が多く、変動はない。
		企業	林業関係者
製造業（食料品）	売上げは多少増加したが、依然として原材料高が続いており、その分の経費の増加を価格に転嫁できない状況が続いている。		
製造業（一般機械器具）	景気が良くなるあるいは悪くなる決定的要因が見当たらない。		
製造業（電気機械器具）	受注高の伸びは横這いで景気は変わらないが、品質不良による補修・補償が生じたことにより予算が減少している。		
製造業（電気機械器具）	普段の仕事の様子及び顧客の様子からみて景気は特に変化していないと思う。		
情報通信業（情報サービス業）	景気に回復の兆しがなく、商談自体が少ない。		
金融業	設備資金の申込みが少なく、景気が良くなっているという実感はない。		
雇用	求人開拓員	求人数はそれほど変わらないが景気と結びつける材料がない。なお、求人は、退職技術者補充のためとするもの多い。	

(1) 県北地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	後期高齢者医療制度問題、原油の値上げによる諸物価の高騰等により消費マインドが低下している。
		スーパー	チラシ広告に掲載した商品を中心とした価格の安い商品しか売れなくなっており、販売点数も落ちているため、売上高も低迷している。
		コンビニエンスストア	夏の行楽シーズンの自動車での来客数が激減し、売上げが伸びない。また、顧客も、品質が良くて安価な商品を求めているようである。さらに、今年は、暑い日が多いこともあり、客単価が減少している。
		衣料品販売店	客は買物に一層慎重になってきている。
		衣料品販売店	売上商品の客単価が低下している。低価格の商品に売上げが集中しているのが現状である。
		小売業（水産物）	売上げ及び客数が減少している。
		スナック	諸物価の高騰の影響により、今月の前年比と3か月前とを比較すると、景気はやや悪くなっていると思う。客の景気が良くならなければ、来客数も利益も増加しない。
		タクシー運転手	6月、7月は思っていたほど売上げが伸びなかった。8月は1日から3日に地元で「ロック・ジャパン・フェスティバル2008」が開催され、全国各地から多くの若者が来訪し、タクシー利用が増したが、ガソリンのほか諸物価の高騰の影響により、景気はやや悪くなっている。
		ゴルフ場	8月の来場者指標は、前年同月比が9.9、当年6月比が8.7となった。地元企業のお盆を中心とした大型連休での家族サービス志向の強まっていることに加え、地球温暖化が原因の1つといわれているゲリラ豪雨等の不順天候日数が対前年比の指標で1.40と増加したことの影響により高齢者ゴルファーの来場が減少している。また、売上げに最も影響を与える土・日・祝日の来場者数がやや減少傾向にある。
		ゴルフ場	来場者数は、季節要因も有り増加したが、消費傾向は下降傾向にある。集客を図るため、格安プランを提供する等しており、客単価はやや減少している。
		美容室	前年の同月と比べると、客数は変わらないが、客単価が低下している。
		住宅販売会社	来場者の動きが鈍く、明らかに景気は悪くなっている。
企業	製造業（電気機械器具）	従来からの顧客の受注量が思うように伸びず、新規顧客を求めて営業活動を展開しているが、思うように進んでいないのが現状である。それに加えて、原材料価格の高騰がかなり負担となってきている。3か月前の状況より良くない状況に進行している。	
	製造業（電気機械器具）	受注量が減少しているため。	
	製造業（電気機械器具）	原材料価格の高騰の影響で、各企業とも経営が大変であるようだ。当社でも、ゴム、プラスチックの原材料価格が10%も上昇したため厳しい状況である。	
	製造業（電気機械器具）	生産高は3か月前と同水準だが、原材料費の値上がりがさらに進み、収益が圧迫されている。	
	製造業（輸送用機械器具）	原油価格高騰等の影響により、自動車メーカーは国内生産の減産を決定し、かつ、大型車を中心の北米生産も減産となっており、販売不振が継続する見込みである。また、自動車メーカー向けの鉄鉱石は値上げ決着となったが、鉄鋼メーカーからは更なる値上げ要求が相次いでいる。また、原油価格高騰に伴う物流費等の値上げも要求されている。そのような状況の中、納入先に値上げ要求を納得してもらうのに苦心を強いられている。	
	建設業	例年の同時期に比べ業務量はさほど変わらないが、経費の増加により、様々な面で緊縮の方向にあるので、景気はやや悪くなっている。	
	建設業	建設工事に係る資材価格の高騰の影響によりやや悪くなっている。	
	不動産業	マンション等が供給過多の傾向にあり、販売価格を下げたマンションの処分を急ぐ業者が見られるようになった。市場の値崩れが所々に見られ、消費者も様子見をしている傾向が強い。	
雇用	人材派遣業	企業の減産等のため、雇用が悪化している。	
	求人広告	景気が良くないと企業は求人をしなくなる。全体的に求人が減少している。	
	公共職業安定所	新規求人数が8か月連続して対前年同月の数値を下回って推移している。	
悪くなっている	家計	スーパー	単価の安い商品ばかり売れている。
		スーパー	お盆の時期に比べ客の来店回数減少している。また、客の買物の仕方を見ると、まとめ買いの客と少量しか買わない客とに分離されてきている。さらに、ギフト商品の売上げも減少している。
		ガソリンスタンド	石油業界においては、仕入れ価格の不透明さが際立ってきている。石油元売業者によるこ入れのあるところとないところでガソリンの販売価格に最大で15円程度の差がでてきている。
		小売業（酒類）	来客数及びタバコ・飲料水の自動販売機売上げとも急激に落ち込んでいる。当店では、自動販売機による売上げが大きかったので、その分の売上げが元の水準に戻るまでには時間が掛かると思う。
		居酒屋	売上げの伸びがない。

(1) 県北地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
悪くなっている	家計	観光型ホテル	今現在の予約状況があまり良くない。
		タクシー運転手	諸物価の高騰により、地元企業の従業者等によるタクシー利用がかなり減少している。
		タクシー運転手	1日当たりの売上げ額を3か月前と比較すると、約25%の減となっている。
		クリーニング店	客数、客単価ともに下がっている。客はあまりクリーニングに品物を出さなくなった。
	企業	製造業（電気機械器具）	原材料価格高騰の波が寄せてきている。また、原油、紙、プラスチック等の副資源も値上りしており、厳しい状況が続いている。

(2) 県央地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	企業		
やや良くなっている	家計	家電販売店	昨年の9月よりは売上げが伸びている。単価は下がっているが販売数量が昨年よりも伸びている。
		農産物直売所	食料品の値上げや産地偽装の問題等の影響もあり、安価でかつ地元産であるという安心感からか、野菜等を購入する来店客が増加し、客単価が上昇している。
		専門スーパー	景気が悪いという話は聞かすが、当店の売上げは昨年の同時期に比べて好調である。
		ファミリーレストラン	当店ではあまり変わらないが、近隣の店舗では多少客足が伸びている傾向にある。
		レジャー施設	入場者数もみやげ品の売上げも夏場からの方が好調であり、6月と比べ景気は良くなっていると思う。
変わらない	家計	スーパー	特に景気が良くなっているとは思わない。3か月前からガソリン価格の高騰や食品価格の値上げが相次ぎ、客のニーズも安くて安全な商品へと移行しているように感じる。また、無駄な商品を購入しなくなったようにも思える。
		コンビニエンスストア	客の消費行動が「良いものをより安く」、「無駄に商品を購入しない」といった生活防衛に向いている感が強い。
		ドライブイン	「水戸の萩まつり」等の催事があり、多くの来客があったが、みやげ品の購入や食堂利用の増加には結びつかなかった。客の財布のヒモは固く、客単価にあまり変化が見られなかった。
		観光名所	ガソリン価格の高騰の影響のためか前年の同時期より来場者は減少したが、売上げは例年並みに推移している。
		パチンコ店	自店は良いが周囲が不況である。また、パチンコの遊技人口が減少している。
		パチンコ店	売上げを見ると、景気の低迷は底を打ったのではないかといいほど良い数値が数日続くと、その後すぐに、悪い時の来客数及び売上げに下がってしまうので、平均すると変わらない。
		美容室	来客数、売上げともさほど変わらない。
		理容店	例年なら良いはずの夏期の売上げが減少した。生活を切り詰めている。
		住宅販売会社	マンション同様、戸建ても買い控えが進んでいるようである。
		企業	製造業(食料品)
製造業(印刷・関連業)	特に変わった様子が見受けられない。		
製造業(一般機械器具)	景気は悪くなると言われながら何とか頑張っている。		
運輸業(道路貨物運送業)	貨物の動きに大きな変化はない。		
不動産業	来客数、成約数ともに大きな変化はない。		
雇用	学校就業関係者	就職支援センターに寄せられる企業等からの求人票、求人情報及び問い合わせの件数は以前と変わらず活発である。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	日頃の話題で多いのは、ガソリンの値上がりに関することである。皆、その経費の増加分をその他の経費の削減等で補っているようである。
		商店街代表者	ガソリン価格の高騰による影響が遠方からの来客数が減少した。地元以外の顧客に聞くと「水戸に来訪する機会が減少した」、「病院、習い事、行事等で必要な時に水戸に来訪して、そのついでに買物や用足しをしていく」という回答が多くなった。
		百貨店、総合スーパー	昨年来の諸物価の著しい上昇、金融不安、さらに最近の政局の混迷が加わり、それらの影響を受けて、消費に対する心理が一層冷え込んでいるのではないかと感じる。衣料品や宝飾品等の販売不振からそのように感じられる。
		百貨店、総合スーパー	高額商品の売上げが減少している。また、同様の商品なら価格に手ごろ感のある商品に移行しており、客単価の減少傾向が見られる。
		スーパー	生鮮部門は非常に好調であるがタスポ(成人識別ICカード)の導入により、タバコの自動販売機の売上げが激減となった。店内のレジでタバコのバラ売りを行ってはいるが、近隣にコンビニエンスストアが数店舗あることもあり、タバコの売上げが前年比で50%を割ってしまった。全体の売上げは、タバコの売上げ減少の分下降気味にある。
		スーパー	物価等の値上げラッシュの中、安価な価格訴求品の売上げは良好である。客は unnecessary な商品を購入しなくなってきている。
		スーパー	客1人当たりの売上額が減少している。
		コンビニエンスストア	客の商品購入の仕方が非常に厳しくなっている。「価値訴求」より「価格訴求」が大きくなってきている。

(2) 県央地域 【現状】

(一：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
やや悪くなっている	家計	自動車販売店	新車、中古車を問わず大型乗用車の売上げが減少し、前年の同時期を下回っている。
		専門スーパー	特に資材関係の商品を購入する客から「高くなったね。」「また上がったの?」と言われる。客はマスコミ等からの情報を更に大きく感じ取っているように思う。
		レストラン	3か月前と比較して、客数、売上げともやや下降気味である。原材料高の影響により利益高及び利益率がやや低下している。
		都市型ホテル	夏期の宴会受注が昨年より減少している。またレストランの利用等も減少している。客の話からも厳しい状況しか聞こえてこない。
		観光型ホテル	今年の夏休みは「安・近・短」の旅行の傾向があり、それに救われて集客は堅調だったが、今年4月以降明らかな材料がなく、しばらくは消費の縮小傾向が続くと思う。
		旅行代理店	全体的に客数の減少が続いている。特に燃油価格高騰の影響もあり、海外旅行客の客数の落ち込みが大きい。
		タクシー運転手	利用客が減少し、売上げも減少している。
		タクシー運転手	売上げが減少し、客単価も減少している。客との会話でも景気の良い話を聞くことはできない。
		ドライブイン	今月は来客数が減少となっており、売上げも減少傾向である。
		ゴルフ場	原油高の影響に伴う食料品費等の高騰により経費支出が増加している割には、収入に伸びが見られない。
		レジャー施設	燃油価格高騰の影響により、当施設の利用回数が減少している。
		建築設計事務所	住宅等の新築物件は確実に減少している。また、公共工事も新築もほとんどなく、既設の建物の改修や耐震診断、耐震補強の物件ばかりである。
企業	農業関係者	売上げは増加しているが、原材料の高騰の影響により利益率は減少している。	
	製造業(印刷・同関連業)	原材料費に値上げが続いており、その分を価格に転嫁できない。	
	製造業(窯業・土石製品)	不動産及び建設業の上場企業の倒産が増加してきている。	
	製造業(金属製品)	3か月前と比べ、見積り件数が減少し、受注量も減少している。	
	建設業	受注が伸びない。	
	情報通信業(情報サービス業)	原材料価格の高騰分を、販売価格に転嫁できないという悩みが多い。業種により景気感の捉え方にバラつきが見られるが、設備投資を控える等から、総じて景気は下降気味であるとの感触を受ける。あらゆる業種に影響を及ぼす原油価格が、思ったほど下落しないことも、市場の盛り上がりや阻害する要因か。小売店では、消費者が必要最小限の物以外の品物は購入しない流れが当分続きそうであり、年末にかけてもあまり期待できないのではないかと厳しい見方をしているようである。	
	サービス業(コンサルタント業)	取引先の小売店や飲食店の売上げ等について、前年の同月と比べると、依然として悪い状態が続いている。	
雇用	人材派遣業	取引先事業所の生産減により、人材派遣契約の終了が増加している。	
	求人広告	燃料価格の上昇等の影響により、求人募集を含む販売促進費や広告費の削減をする企業が増加している。人員を削減したり、人材募集回数も従来は月に2、3回だった企業が月1回に削減しているというような状況である。	
	公共職業安定所	新規求人数は、直近の3か月で、いずれも前年同月比で減少となっており、今月と3か月前を比較しても30%の減少となっている。また、新規求職者数も3か月前との比較で29.5%の減少となっている。景気低迷の中、進出企業等からの新たな求人も少なく、また、求職活動も消極的な様子が窺われる。	
	求人開拓員	求人企業数は3か月前とほぼ同数の97.6%であるが、求人数は70.3%と減少している。	
悪くなっている	家計	レストラン	ガソリンや食料品等の値上がりが止まらないため、外食を控える傾向になってきている。顧客からも「家族での外食が減った」との話を聞く。
		割烹料理店	客足が落ちている。また、当店の前の国道を通る自動車の数も減少している。
		タクシー運転手	実車回数及び売上げを3か月前(5/16~6/15:営業日数20日)と今回(8/16~9/12:営業日数19日)とで比較してみると、実車回数が4.2%減、売上げで23.7%減である。また、9月に入り、駅からの乗客客及び飲食店からの配車依頼が更に目立って減少している。ひどい状況である。
	企業	製造業(食料品)	原材料費の値上げが経営を圧迫している。
		金融業	最近のガソリン高騰及び原材料高による物価高騰などにより、将来に対する生活不安、閉塞感が蔓延し、活力が無くなっている様に感じられ、各業種で景気の悪さから、あきらめ感が漂っている。
サービス業(広告業)	受注件数は前年の同時期と比較して、少なくとも10%は低下している。回復の兆しは全く見えていない。		

(3) 鹿行地域 【現状】

(ー：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
やや良く	家計	割烹料理店	接待で利用する客の料理の単価が以前より上昇してきている。
		観光型ホテル	予約が少し増加している。
	企業	製造業（化学工業）	定期点検・修理が終了し、工場が本格稼働すれば、増産に伴い売上げも向上すると思う。
変わらない	家計	商店街代表者	商店街としての機能が年々低下しており、固定客が減少傾向にあるが、3か月前と比較すると変わらない。
		小売業（酒類）	商品の値上げによる買い控えが落ち着いてきたように思う。
		衣料品販売店	原油を始めとした各種商品が相次いで値上げされたことにより、衣料品等は、特に必要な物でなければ買い控えるという傾向が続いている。
		パチンコ店	来客数や売上げに大きな変化はないので、景気は変わってないと思う。
		パチンコ店	ここ3か月の稼働状況はほぼ変わっていない。
		クリーニング店	原油高の影響が大きく、3か月前と同様の厳しさである。
		住宅販売会社	原油高が一旦落ち着きを見せたが、今後の動き次第では良くも悪くもなる可能性があると思う。
ない	企業	水産業関係者	燃油価格の高騰に伴う経費の増加はあるが、冷凍品の輸出等が順調に推移しており大きな変化はない。
		製造業（食料品）	景気が良くなるような要素がない。「モノ」・「カネ」に動きがなく、まだまだ景気上昇の気配はない。
		製造業（鉄鋼業）	原材料価格は高騰しているが、3か月前と同様フル生産の状態が続いている。
		運輸業（道路貨物運送業）	大手顧客である地元企業の出荷量に変化がないので、景気も変わらない。
		不動産業	来客者数は減少しているとは思われない。
		サービス業	受注量がほぼ横這いである。
		雇用	公共職業安定所
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	一般消費者は、先行きの不安からより一層の儉約に努め、いわば「儉約過敏症」というべき状況になっており、お金をできるだけ使わないという雰囲気が漂っている。昔の人は国を良く治めることを「医国（醫國）」と言い、宰相のことを「医国（醫國）手」と言ったそうである。また、「西」という字は「ひよみのとり」から転じて「人読みのとり」と言われ、医学と関わりの深い言葉である。国政も、医師が病状を「診断」するように、眼で見える外面的な部分だけではなく、内面的な部分まで「診る」ことが必要ではないだろうか。日本の技術力は、近隣諸国と比べて何ら見劣りするものではない。この技術力をもってすれば、景気も健全に元気を取り戻すと思う。
		スーパー	客の買物の仕方が細かくなっている。価格によって客の流れが変化する。また、特売品の売上げ比率が高くなっているため、客単価が低下している。
		コンビニエンスストア	タスポ（成人識別ICカード）の使用を避け店頭でのタバコ購入者が増える「タスポ効果」は早くも薄くなり、タバコを除く売上げは前年の同時期を下回っている状況である。
		家電販売店	北京オリンピック等の大きなイベントがあったが、売上げに目立った効果はなかったように思われる。また、今年は、新築に伴い家電を一新する客が昨年より少ない気がする。
		農産物直売所	ガソリン価格の高騰により、「なるべく自動車に乗らないようにしなければ」とか「なかなか自動車で出掛けられなくなる」という客の会話をよく耳にする。実際、特に月末の来客数がかなり減少している。また、自分の家で消費する分だけ購入する客が目立ち、贈答品の売上げが低迷している。
		小売業（金物店）	工事件数自体が少ないため、競争入札時の見積り単価が低下し、利益を圧迫している。また、商品の仕入価格が上昇しており、利益はますます低下している。
		小売業（書店）	月の売上げ対前年同月比は、今年度に入ってから連続でマイナスである。

(3) 鹿行地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
やや悪くなっている	家計	洋食食堂	1年中で1番の繁忙期であるはずが、売上げ、客数ともに今ひとつである。また、食材の値上がりが止まらず、収益は3ヶ月前よりも一層悪化している。
		タクシー運転手	これまで3～4年間、ある顧客から週1回指名をもらい、片道の運賃が2千円位の距離にある病院まで送迎をしていたが、2～3か月前からは、月に1度位しか指名をもらえなくなった。客に理由を尋ねたところ、毎週のタクシー代が大変なので、1日に3往復しか走っていないが、運賃の安い(片道300円)地元自治体のコミュニティバスを利用しているとのことだった。
		タクシー運転手	乗客から「最近、タクシーの景気はどうか」とよく聞かれる。「あまり良くない」旨の回答をする、「やっぱりね」という返事が返ってくる。一般の客、飲食店の客を問わず、このような会話が度々出ること自体、最近の景気が悪くなっている証拠だと思う。
		タクシー運転手	例年夏場は人の流れが悪いうえに、物価高のため消費を控える人が多く、タクシー業界の景気は3ヶ月前よりやや悪くなっている。
		ドライブイン	客の9割以上が自動車を利用して来店するため、燃料価格高騰の影響は大きい。
		観光名所	来客数が減少しつつあるうえ、客は外出時の飲食費等の支出を節約している様子が見受けられるため、売上げはやや悪くなっている。
		理容店	諸々の物価が値上がりして、個人差はあるが、顧客が散髪に来店する周期が長くなっている。このことから、景気はやや悪くなっていると思う。
		室内装飾業	地元工務店からの受注量が減少している。工務店は見積りを行って、最も見積額の安い業者に発注をするが、それを受注しても利益はスズメの涙ほどしかないのが現状である。
		住宅販売会社	来場者数が減少している。
	企業	製造業(飼料)	穀物価格高騰の影響により、畜産農家の減少や飼養頭数の減少が生じていると思われる。
		製造業(印刷・同関連業)	受注件数が減少している。
		製造業(化学工業)	経費増加に対処するため、製品価格の値上げ交渉を進めているが、その影響か、販売量が減少しており、減産も検討されている。
		運輸業(道路貨物運送業)	新規の仕事の話が出てこない。原材料、燃料の価格高騰の影響で、貨物の動きは鈍くなっている。また、在庫レベルが低い中での動きなので、思惑が外れている。
		金融業	3か月前と比較すると、貸出金に対する返済額の軽減の相談が増加している。このことから、資金繰りが徐々に厳しくなってきたことが窺われ、景気はやや悪くなっていると感じる。
	雇用	人材派遣業	人材派遣での新規受注が大幅に減少している。各社とも、現有体制で多少の生産減を乗り切る方針と思われる。
		民間職業紹介業	有効求職者数が減少しており、企業のニーズに適合する求職者の確保がだんだん厳しくなっている。労働力の需要と供給のマッチングが思うように図れていない。
		学校就業関係者	授業で使用する鋼材の価格が月を追うごとに上昇していることから、景気はやや悪くなっていると判断した。
		求人開拓員	事業所を訪問した際に、仕事の状況を尋ねると、ほとんどの事業所で「不景気だ」との返事であり、良い話は全く聞かない。
悪くなっている	家計	スーパー	ガソリン価格の高騰で、自動車による来客者数が減少した。また、1人当たりの売上げ点数も減少している。
		スーパー	値上げた商品が多くなり、特売商品の価格も上昇しているため、客1人当たりの売上げ点数が減少している。
		コンビニエンスストア	タスポ(成人識別ICカード)が必要な自動販売機の利用を避けたタバコ購入目的の客が増える「タスポ効果」はあったが、全体的に商品の価格が上昇しているため、客1人当たりの売上げ単価及び点数は減少しており、厳しい状況である。
		小売業(菓子販売店)	諸物価の値上がりにより、消費者の購買行動は慎重になっている。
		小売業(薬品店)	原油価格を始めとした各種原材料価格が高騰しており、消費者は警戒感を抱いているようだ。
		日本料理店	企業の接待利用が減少している。特に、運輸業界の利用が減少しており、次いで土木業界の減少も目に付く。
		観光型ホテル	当館利用者(宿泊、宴会及びプール等)の客単価が低下している。

(3) 鹿行地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
悪くなっている	家計	タクシー運転手	今月の売上げの前年同月比と3か月前の前年同月比を比べると、今月の方が減少幅が大きく、前年比で20%減少している。また、タクシー乗降場での客待ち時間の平均を3か月前と比べてみると、3か月前は約1時間で乗客を乗せることができたが、最近では、2時間くらい待ってやっと客が乗る状態である。このことから、景気は3か月前より悪くなっていると思う。
		クリーニング店	依然として、物価の上昇が続いている。経費は増加する一途だが、売上げは変わらないか若しくは減少している状態である。
	企業	農業関係者	燃料価格の高騰及び物価高の煽りで農産物が売れず、農家は嘆いている。相変わらずの「豊作貧乏」である。
		製造業（食料品）	原材料費・燃料費の高騰により、製品価格を値上げしたにもかかわらず、利益薄となり厳しさを感じている。
		建設業	建築件数が減少している。中小業者は大手業者に押されている。

(4) 県南地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント	
やや良くなっている	家計	旅行代理店	3か月前よりも旅行の間合せが多くなっている。また、新規受注もあった。	
		ゴルフ場	8月後半にはゲリラ豪雨があり客足が遠のいた。9月は天候も安定し、来場者が増加している。いずれにせよ、ゴルフ場の収益は天候に左右される。	
		ゲームセンター	お盆や学校の夏休みで家族連れのお客が目立ち、また一見客も多く見受けられた。	
	企業	建設業（設備工事業）	工場の改修工事、学校関係の耐震工事等の案件について、見積り、引合い等が少しずつ出てきている。	
		運輸業（倉庫業）	「生産→保管→出荷」が業務の流れであるが、その回転が最近早くなっている。国内はもとより輸出品の動きも増加傾向である。	
変わらない	家計	スーパー	相変わらず、原油及び穀物価格の高騰による買い控えはあるが、客数、客単価ともにほぼ変動がない。	
		スーパー	3か月前と比べて、客数、商品単価、売上げ点数にも変化がない。パン、ラーメン、小麦粉、食用油等の値上げした諸商品に対して客も慣れてきたようである。	
		農産物直売所	月に2回売り出しセールをするようにしたので、その分の売上げは伸びているが、全体の売上げは3か月前と変わらない。	
		ゴルフ場	天候に左右されがちな業種だが、前年同様の営業をすることができた。	
		住宅販売会社	T X（つくばエクスプレス）開業効果も一段落し、住宅の購入等に際しては、冷静に考慮し、決断を急がない客が増加している。	
	企業	農業関係者	原油高及び肥料等の生産資材価格の高騰により農家の生産意欲は低下の傾向にあるが3か月前と比べると変わりはないと判断する。	
		製造業（食料品）	既存の顧客との取引では夏季商戦もほとんどが昨年割れとなり、新規（新店）顧客との取引と合わせてもプラスにはならなかった。逆に売上げに対して作業経費ばかり掛かるようになった。	
		製造業（食料品）	物価高騰等により出費が増加するという警戒心が消費者にはあり、消費は伸びない。	
		製造業（印刷・同関連業）	受注量は例年と変わらない。用紙等の原材料価格の上昇についても、少しずつ取引先に理解を得て、販売価格への転嫁ができるようになってきている。	
		製造業（窯業・土石製品）	ガソリン価格が落ち着いてたので、何となく安心感が得られた。しかし、アメリカの証券会社「リーマン・ブラザーズ社」の経営破綻等があり全く予測できない状態になってしまった感がある。	
		製造業（一般機械器具）	3か月前と変わらず、経費削減及び省エネルギー活動が続いている。	
	雇用	人材派遣業	増員又は減員のある得意先の企業は特にない。	
	やや悪くなっている	家計	商店街代表者	原油価格及び食料品を始めとした物価の高騰が顕著であり、また今年の夏の猛暑、北京オリンピックの開催等で消費者の目は内を向いていたようである。各家庭の可処分所得も明らかに減少しているようである。
			スーパー	仕入原価の高騰により商品価格を値上げしたが、売上げ点数の減少はなかった。このため、辛うじて、前年同月の売上げはクリアできたが、3か月前の対前年比と比べると悪くなっている。
			スーパー	物価の上昇。
コンビニエンスストア			原材料を始めとする諸物価の高騰により客単価が減少傾向になっているため。	
衣料品販売店			客単価が低下した。また、客は、本当に必要かどうかを吟味して購入するようになり、衝動買いをしなくなっている。	
家電販売店			価格高騰品対象に一部の家電も含まれており、来客数も減少傾向にある。	
農産物直売所			自動車による来客者が多いので、昨今のガソリン価格の右肩上がりの高騰に反比例するように店の売上げは右肩下がりの減少となった。また、野菜価格が一時期安価になったことも売上げ減少の要因の1つとして挙げられる。ただ、最近野菜の価格が上昇してきており、若干ではあるが売上げの減少傾向に歯止めがかかりつつある。	

(4) 県南地域 【現状】

(ー：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
やや悪くなっている	家計	専門スーパー	今年の夏は暑い日が続いたため、季節品の売上げが増加したが、客の多くは必要に迫られて購入しているように見受けられた。原油価格の高騰により諸物価が値上りし食品も非食品も売上げ数は伸びていない。単価が値上りした分で何とか維持できている状態である。数字の上では景気は変わらないといえるが、実際にはやや悪くなっているように思う。
		ガソリンスタンド	原油価格の高騰などで客の買い控えが進んでおり、この業界全体で売上げが20%減となっている。
		洋食食堂	原材料高の影響が大きい。接待等の食事会の予約が入らないと赤字営業の日々である。当店では、値段の安い順に、A、B、Cのコースがあるが、以前はBのオーダーが最も多く、高いCもそれなりにオーダーされていた。しかし、今は、最も安いAのオーダーばかりである。
		寿司店	客との会話はどうしても景気の話が多く、そのほとんどが景気の悪さについての内容である。
		都市型ホテル	物価の高騰により、安価な商品(料理、宿泊プラン)を選択する客が増えた。客との打合せの際にも、諸物価の値上りの話がよくでることもあり、景気はやや悪くなっている。
		都市型ホテル	ホテル内で食事をする宿泊者が減少している。滞在者の宿泊日数が減少してきている。平日出張の多い月曜日から木曜日の客室稼働率が少し低下してきている。
		旅行代理店	燃油価格高騰の影響により売上げは落ち込んでいる。
		タクシー運転手	ガソリンの値下げは消費者の心理に良い影響を与えているとは思いますが、現実には依然として厳しい。消費に対する節約、我慢が定着してきている。
		タクシー運転手	諸物価の上昇により、支出を抑えようという傾向が強くなり、その影響がでている。
		美容室	諸物価の高騰に対して特に主婦層が敏感であり、来店頻度が過去にないほど低くなっており、当店の現状は下降気味である。
建築設計事務所	地元では新築は少なく、リフォーム工事が多い。設計業務は減少している。		
企業	製造業(食料品)	例年の9月より客数が若干減少している。	
	製造業(窯業・土石製品)	原材料価格は高騰しているが、その分の販売価格への転嫁が進まない。	
	建設業(設備工事業)	ガソリンのほか衣食住に関わる諸物価の上昇により、住宅設備機器の買い替え需要や住宅等の内部改造工事が大きく減少した。また、当社の近隣の住宅では居住者が高齢化してきているため工事単価を下げざるを得ず、さらに、資材等の値上りによる経費の増加により、利益が減少している。	
	金融業	業種を問わず経営者から聞かれる声は、売上げの減少や利益率の低下等の話ばかりであり、やや悪くなっていると思う。また、中小零細企業の経営者は今後危機感を募らせている。	
	不動産業	広告に対する反響やインターネットでの問合せ及び来客数全てやや減少している。	
雇用	求人広告	諸物価が高騰している。運送業の顧客の中には、今月の燃料費の動向により求人募集をするかどうかを決めるというところもある。また、求人募集をしても良い人材が集まらず、1年前より時給を上げる企業が目立つ。物価も人件費も上がり、苦しい企業が多い。	
	公共職業安定所	表面上は問題ないものの、話の中で原材料や原油の高騰等がでてくる。	
	学校就業関係者	今年度、当校の生徒を採用予定であった企業が、急遽、採用数の削減による辞退の連絡があった。6月に求人票の受付をしており、生徒も受験するつもりでいたため、落胆している。	
	雇用相談員	定年退職者、50歳代で退職した後3~4年無職であった方、さらに小さな子供を持つ母親等の就職活動が目立っており、「短時間でも仕事をして多少なりとも収入を得たい」という話をよく聞く。	
悪くなっている	家計	スーパー	当店から約1kmの場所に大手スーパーマーケットのチェーン店が新たに出店した。これで、当店は、特定の地域に集中してチェーン店舗を行う、いわゆる「ドミナント出店」の3店舗に囲まれてしまうことになったため、景気は悪くなっている。
		自動車販売店	ガソリン価格を始め物価の上昇に伴い、高級車の市場が縮小している。
		和食食堂	来客数の減少が止まらない。
		洋食食堂	固定客は変わらないが、子供を連れた女性の客の減少が目立つようになった。また、ランチタイムの客数が減少している。メニューの構成は変えることはあっても値上げは10年以上もしていないのだが、企業の撤退や規模縮小による影響が大きい。
		レジャー施設	何もかもが値上りしている。これで景気が良くなるはずはない。人の流れも車の流れも少なくなっており、景気は悪くなっている。
企業	製造業(非鉄金属)	燃料価格や原材料価格の値上りにより経費が上昇しているが、その分を販売価格に転嫁しにくい状況にある。売上げの伸びも鈍化傾向にあり、収益面については増収減益となっている。7月のボーナスを対前年比60%カットし、また、時間外勤務の削減、経費節減等により収益確保のため努力中であるが、経営環境はますます厳しい状況にある。	
	建設業	8月の中旬頃から、上得意客の態度が急変してきている。見積り金額の多寡にかかわらず、3~4か月で回答をもらうはずの案件が8~10か月も掛かる場合もあり、なかなかゴーサインがでない。これは、上得意客において予算取りに慎重になっているというわけではなく、例えば、喫煙室の設置や工場内の設備投資等について、「この不況時にこの物件を建設することが果たして会社にとってプラスになるのか」という観点からの判断とのことである。	
	建設業	原油及び鋼材価格が不安定であるため。	

(5) 県西地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
やや良くなっている	家計	コンビニエンスストア	7月からの未成年者へのタバコ販売の禁止等を目的とした「タスポ（成人識別ICカード）」が導入以降、タバコを購入する目的で来店する客が増加し、タバコの売上げが大きく増加し、客単価も前年の同時期よりも上昇している。また、原材料価格や物価の高騰等により消費環境は厳しくなっているが、プライベート商品への消費者のニーズは高まっており、価格だけではなく品質まで評価されている点大きい。
		衣料品販売店	消費マインドの低下傾向は続いているが、当店では、店内レイアウト変更、折り込みチラシによる広告、さらには、今年の夏の猛暑等により夏物衣料の晩期商戦が好調で、昨年と同じ時期比で、売上げは110%台で推移している。
		ドライブイン	ガソリン価格の高騰の影響等で来客数の減少や前年同月の売上げを大きく下回るのではないかと予想していたが、大幅な減少はなかったため、やや良くなっていると判断する。
		理・美容店	今年の夏は例年より気温も湿度も高かったため、6月に比べ、客の来店の間隔も短くなり、多い人で月に2回来店してくれた。
企業	製造業（食料品）	工場と営業とが一体となって開発した新製品の売れ行きが好調である。	
雇用	学校就業関係者	授業で使用する鉄鋼材料の価格について、3か月前は1、2週間先の価格すら予想できない状況であったが、最近は価格に変化がなくなってきたことから、やや良くなっていると判断する。	
変わらない	家計	スーパー	特に売上げ点数が増加しているわけでもなく、3か月前と同様に、前年同月の売上げを下回る実績が続いている。
		コンビニエンスストア	3か月前と前年比と今月の前年比を比較すると、売上げ、客数とも増加しているが、これは、タスポ（成人識別ICカード）の導入によりタバコを購入する客が増加したことが要因であり、この増加分を除くと横這いの状態である。
		農産物直売所	農産物直売所では販売価格が安価であるため、来客数は増加しているが、客単価は通常どおりである。
		専門スーパー	売上げ点数、売上げ金額とも対前年比で変わらない。
		和食食堂	売上げ、来客数、客単価等を3か月前と比べて、変わりはない。
		和食食堂	3か月前と比べて、客数は変わらない。
		タクシー運転手	あまり良い話は聞かない。
		タクシー運転手	商店街や夜間の居酒屋の様子、工業団地へのビジネス客の数及び乗客との会話の内容等々、いずれを見ても3か月と比べて大きな変化は感じられない。3か月前と同じ程度の低調な状況のまま変わらない。
		ドライブイン	ガソリン価格の高騰も一息付いた感があり、来客者数、客単価とも変化なく推移している。
		ゴルフ場	予約状況からみて変わらない。
		ゴルフ場	予約状況、入場者数とも特に変化は感じられない。
		ゲームセンター	3か月前と比べて、ほぼ同じ程度の客単価で安定している。また、売上げの前年同月比が3か月前とほとんど変わらない。
		レジャー施設	物価の高騰が続いており、景気の回復は何ら見られない。
企業	農業関係者	農産物直売所にはメロン、スイカ等の季節の果物等が豊富にある時期であるが、前年度と比較してまとめ買いが少ない。ガソリン価格や諸物価の高騰の影響による買い控えがあるとみている。客は必要な商品は購入するが、 unnecessary 商品を衝動的に購入することはあまりなくなってきた。	
	製造業（印刷・同関連業）	ガソリン価格の高騰に始まり、諸物価の値上りは零細企業や各家庭にボディーブローのように効いてくる。本当は景気が悪くなっているとしても、政治家、マスコミ、そして我々は、少しでも明るい情報があればそれを強調して、気持ちの上だけでも景気を良くしようと思わなければますます沈んでしまう。したがって、3か月前と比べて景気は変わらないと判断する。	
	製造業（金属製品）	得意先からの引合い及び受注高とも変化がない。	
	製造業（印刷・同関連業）	当社の取引先から景気が良くなったという話は聞こえてこない。取引先の景気向上が当社の景気にも反映するので、少しでも早く景気が良くなるよう願わずにはられない。	
やや悪く	家計	商店街代表者	地元で毎年開催される花火大会に今年も模擬店を出店したが、昨年に比べて売上げが激減した。他の出店者達もかなり売上げが低かったようであり「客の財布のヒモは固くなったようだ」と話していた。
		家電販売店	9月1日から生活必需品が全般的に値上りし、生活が苦しくなっている。ガソリン価格が低下したが、それが続くのか不安がある。また、給与額も増加しない。
		和食食堂	ガソリン価格が低下してきている一方で、食料品の原材料等の価格は高騰している。また、集中豪雨等の天候が続いたことにより野菜類の価格が高騰し利益率が減少した。

(5) 県西地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
やや悪くなっている	家計	和食レストラン, 割烹	食材の価格が更に上昇している。ガソリン価格もなかなか低下しない。客単価が低下し、客数も減少しているため、売上げが増加しない。
		多目的ホール	宴会等の客数、客単価が3か月前及び前年の同月と比べて減少している。また、物価は上昇しているが、その分を売価に転嫁できないため、売上げは減少している。
		旅行代理店	毎年この時期は、稲刈り・運動会などで受注が少ない時期であるが、今年は、例年に増して低調である。
		タクシー運転手	お盆の時期を過ぎてから業務量が極端に減少してきている。特に、夜間は依頼の電話も少なく静かである。
		タクシー運転手	週末(金曜日・土曜日)以外の夜の仕事量が急激に少ない。
		パチンコ店	物価上昇の影響により、商圏の客数に若干の減少が見られる。
		理容店	自家用車の利用が多い地域であるので、ガソリン価格の高騰が大きく影響している。
		住宅販売会社	住宅は高額商品であるため、社会状況を見ながら判断保留とする客が増加している。
	企業	製造業(化学工業)	アメリカのサブプライムローン問題の影響で北米輸出関連製品の製造が低迷している。特に、裾野の広い自動車関連製品の低迷に伴い、半導体、液晶関連等にも影響が及んでいる。また、例年であれば、クリスマス商戦に向けての受注が増加する時期であるが、今年はその気配は全くない。
	企業	製造業(窯業・土石製品)	今年に入ってからやや悪くなっている状態が続いている。昨年と比べ悪くなっている。
	企業	製造業(窯業・土石製品)	予測していた以上に受注量が少なく、売上げが減少している。取引先の小売店からは「客からの注文が取れない」「受注が少ない」との声を多く聞く。当社の顧問税理士によれば、こういった状況は当業界だけではなく、あらゆる業種の中小零細業者にいえることであるとのことである。
		製造業(一般機械器具)	これまでは見積りなしで出来高で取引していた得意先が見積りを要求してくるようになった。
		製造業(電気機械器具)	仕事量の減少により、人員対策に関する相談を受けるようになってきた。
		金融業	原材料価格の高騰が続き、販売価格上昇の懸念からやや買い控えが見られる等、消費活動が悪くなっている。
不動産業		分譲マンションの売行きが極めて悪い。	
雇用	人材派遣業	原油高による仕入れ経費の増加。	
	公共職業安定所	新規求人数が2か月連続で減少しており、有効求人倍率が低下している。特に製造業の減少(対前年同月比)が続いている。	
	就職相談員	個人企業では業務量が減少しているという話をよく聞く。	
悪くなっている	家計	商店街代表者	順調に伸びていた当店の売上げが下降線をたどり始めた。客単価が低くなった。
		スーパー	8月のお盆明け頃から、客数、売上げが前年同時期の数値に届かなくなっている。内訳としては、売上げ点数が減少している。客は無駄な商品を購入しない傾向にある。値上げされた商品の特売は特に動きが良い。
		スーパー	1人当たりの売上げ点数が減少している。客は無駄な買物はしていない。
		自動車販売店	自動車販売店を取り巻く環境は一段と厳しさを増している。ガソリン価格等の高騰により、高額商品(高級車)の買い控えが続いている。
		ガソリンスタンド	ガソリンの販売数量が前年同月比約80%であり、かつてないほどの悪い状態である。また、当店は現在「フルサービス」を提供しているが、客は1円でも安価な店を求めており、「セルフサービス」のスタンドに移行する客が多い。
		都市型ホテル	原油高、ガソリン高等の影響で、客の利用が減少している。
		クリーニング店	客がクリーニングに出す品物の点数が減少している。持ち込みの顧客も訪問して品物を預かってくる顧客も、ともに品物の点数が減少している。

(5) 県西地域 【現状】

(ー：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
悪くなっている	家計	建築設計事務所	景気の低迷が続いているため、建築業界に大きな影響がでている。特に住宅の新築物件の減少が著しい。物件が少ないところに大手ハウスメーカーや建売業者が参入し、地元の工務店や大工は請負ができなくなってきている。そのため、安い賃金で働くサラリーマン大工が増加している。また、兼業で農業も行っている大工の中には、農業に専念する者もでてきている。
	企業	農業関係者	全ての農業資材価格が高騰しているにもかかわらず、全国的な物価高による消費の低迷から、資材購入に掛かる経費の増加分を販売価格に転嫁することができず、その上、野菜、果実の販売価格は上がるどころかむしろ下がっているような状況である。農業資材の購入に際しては、より安い店を探して購入しているが、6～7月に各資材の値上げ(30～60%)があったばかりなのに、10月から更に値上げされるといいう情報があり、農家はかなり追い込まれている。
		製造業(食料品)	仕入れ商品の価格の値上りため、買い控えがあると思われる。仕事の量が減少している。
		製造業(印刷・同関連業)	原材料の値上りが激しいが、その分の販売価格への転嫁が進まず、経営基盤の崩壊が始まっている気がする。
		建設業	受注量の減少により、原油、原材料、製品等の価格の値上りを工事費に転嫁させることができていない。設備投資の意欲が減退している。
		サービス業(コンサルタント業)	消費財の価格高騰が続いており、それがボディーブローのようにかなり効いてきている。さらに、全般的に仕事がないか若しくは仕事量が激減しており、銀行への返済等に苦慮しているところが多いように見受けられる。
雇用	求人広告	求人広告の依頼が減少している。	

Ⅲ 景気の判断コメント — 2 景気の先行き判断コメント

(1) 県北地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント	
良く	企業	水産業関係者	まき網漁船では、減少していた「サバ」の資源復活がみられ、サバ漁の好漁が続いている。また、小型漁業では「秋シラス」が豊漁であり、現状のまま推移すれば、昨年を上回る漁獲量となり、地元の水産業界の景気に良い影響を与える。	
やや良く	家計	タクシー運転手	地元企業に勤務している客から聞いた話では、その企業でこの後予定されている人事異動の規模が、今年は例年より大きいようであるので、タクシーの利用が多少は増加するのではないかと。	
		美容室	例年のことではあるが、年末は時期的に売上げ等が若干良くなる。	
	企業	製造業（電気機械器具）	徐々に仕事量が増加してきている。	
	雇用	人材派遣業	派遣先の職種の拡大が予定されており、12月頃は景気がやや良くなっていると思う。	
変わらない	家計	スーパー	好転しそうな要因がない。	
		コンビニエンスストア	政治的な混乱もあり、経済に対する期待が持てない。ガソリン価格は若干低下したものの消費者としては支出に大きなダメージを伴う。その分を補うため、食品でも価格高騰に対して支出を抑える傾向は続くと考えられ、現状と比べて変化はないと思う。	
		コンビニエンスストア	行楽地を抱えるエリアの店舗では、ガソリン価格の状況により売上げが左右されると思うが、消費者の意識は変わらない。「タスポ（成人識別ICカード）効果」や弁当等を購入して持ち帰り、職場や家庭で食べる、いわゆる「内食」の傾向に伴う部分の伸びはあるが、ギフト等の予約商戦は厳しくなっており、3か月後もこの状況は変わらないと思われる。	
		衣料品販売店	これから商品は秋冬物になるが、客は必要な商品だけを選んで購入する傾向になっているため、販売数量が伸びないと思う。	
		家電販売店	9月以降の家電製品の値上げに対する反応も見られていないので変わらないと思う。	
		自動車販売店	現状が大きく変わるような要素がない。	
		農産物直売所	自動車での出控えが心配されるが変わらないと思う。	
		レストラン	平行線だと思う。	
		旅行代理店	利用件数及び利用者の増加が見込めない。	
		タクシー運転手	今の現状より悪くなる要因はないと思う。	
		タクシー運転手	今年に入ってから特に良い話がでてこない。今後もしばらくこの低迷した状態のままだと思う。	
		ドライブイン	ガソリンは値下りし始めたが、今月から値上げする商品も多い。	
		ゴルフ場	ガソリン価格が今後どのように推移していくか見守りたい。エコロジーが声高に主張される今日、今後の交通手段の変化（自家用車利用の減少、公共交通の利用の増加等）による飲食等変化や休日の利用増を期待したい。ただ、公共料金、食材、燃料価格等の上昇により、経費削減にも限度があり、料金の値上げとのバランスや、グループ化等の企業努力による徹底した経費軽減の結果からの料金の打ち出しとの競争に不安を感じる。先行きは足踏みか微妙な後退を予測する	
		レジャー施設	秋の団体客の予約状況が例年並みに落ち着きそうであるため。	
		ゴルフ場	ドラスティックな景気回復は期待できないことから現状維持と推測する。原油価格引下げが好材料となりトップシーズンの予約増を期待している。なお、秋の予約状況は昨年よりややスローペースとなっている。	
		美容室	物価の高騰により、材料の仕入れ値もそれなりに上昇してきている。	
		住宅販売会社	このまま政府が無策であれば、状況は変わらない。	
		企業	林業関係者	山林の下草刈り作業も終了し、今後は素材生産が期待できるが、木材価格については変わらないと思う。
			製造業（食料品）	原料、資材等の値上げが見込まれ、その分の経費の増加を価格に転嫁できない状況が続くものと思われる。

(1) 県北地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
変わらない	企業	情報通信業（情報サービス業）	景気が良くなるような理由が見当たらない。景気は相変わらず低迷していると思う。
		金融業	日立地区は地元大企業の影響が大きいですが、下請け業者の受注が増加したという話はあまり聞かない。また、原油高、原材料高の影響により、収益確保が厳しい状況が続き、景気が好転するとは思えない。
	雇用	学校就業関係者	現状では判断できない。
		求人開拓員	地元の製造業からは、「仕事があっても、採算ベースに合わない」との話がでてくる。景気は上昇機運ではないように感じる。
やや悪くなっている	家計	衣料品販売店	買い控えがますます進むと思う。
		小売業（水産物）	客単価の低下や「ついで買い」のような買い方をする客が減少しており、皆節約に努めている。
		スナック	忘年会があり団体客が増える時期であるが、今年は、諸物価の価格高騰の影響等により景気はやや悪くなると思う。
		観光型ホテル	公共料金等の値上げによる影響が不安である。
		観光型ホテル	宿泊予約については前年同期と変わらないが、日帰り予約については、低調な傾向にあることからやや悪くなると思う。
		タクシー運転手	諸物価の値上り等の景気が悪くなるような話ばかりで、良くなるような見込みはない。福田内閣の総辞職後に誕生する新内閣が景気にどのような影響を与えるだろうか。
		パチンコ店	ガソリン価格の高騰の影響が徐々にでてくると予想している。
		ゴルフ場	3か月後の予約状況について、前年の同時期と比較した指標は78程度で推移しているが、過去の実証データから、近いうちに実施されるであろう衆議院の解散・総選挙の影響がマイナスに働くことを懸念している。また、ガソリン、食材等の価格の値上りの影響により生活引き締めが進み、ゴルフ場の来場の出足を鈍らせることが予想される。
	企業	製造業（一般機械器具）	各種にわたる価格高騰の影響がでてくる可能性がある。
		製造業（電気機械器具）	原油高騰の影響による赤字予算が見込まれる。また、事故対策費・補償費の加算も見込まれる。
		製造業（電気機械器具）	10月からの2008年度下期から、原材料が値上げされる。これに伴い、原材料を加工して造られる部品の価格の上昇が予想され、経営を圧迫することが懸念される。よって、景気は確実に悪い方向に進むものと考えられる。
		製造業（電気機械器具）	受注量が増える見込みがないため。
		製造業（電気機械器具）	今のところ景気が良くなる話は何も聞けない。
		製造業（輸送用機械器具）	この状況は今後も継続し、更に状況が悪化するものと予想される。
		建設業	今後も更に資材等の値上げが予想される状況にあり、受注単価の改善は期待できないので、景気はやや悪くなっていると思う。
		建設業	公共工事、民間工事とも動きはあるが、経済的な動向によっては悪くなるような気もする。
	不動産業	原油価格は下落を始めたが、いまだに高止まり傾向である。それによる消費者心理の冷え込みや政治的な不安定さもあり、先行きは不透明である。	
	雇用	求人広告	原油価格の高騰を含め、景気が良くなる気すらしらない。
		公共職業安定所	原油高、原材料価格の高騰に伴い、企業の収益面への悪影響が見られており、その傾向は続く予想される。
	悪くなっている	家計	商店街代表者
スーパー			商品の原価が上昇すること等により、値上げ商品が増加して販売点数が減少するものと思われる。
スーパー			先行きの不安や収入の頭打ち等、景気が悪くなる材料ばかりで、良くなる材料はない。「これから大変ね」が合言葉のようにになっている。
ガソリンスタンド			石油業界における仕入れ価格の不透明さが解消され、スタンド間のガソリン販売価格の格差が解消されない限り、良くならないと思う。
クリーニング店			消費者は価格に敏感になってきており、ワイシャツ等はクリーニングには出さずに家庭で洗濯しているようである。
企業	製造業（電気機械器具）	北京オリンピックが終了したことで多少落ち着きを取り戻すのではないかと考えているが、予断はできない。来年の3月頃まで景気の低迷は続くのではないかと。	
	製造業（電気機械器具）	親企業からの受注状況、予算状況等からみて厳しくなるのは必至である。	

(2) 県央地域 【先行き】

(一：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
やや良く	家計	スーパー	願望も込めて良くなっていると判断する。お金の動きが鈍くなると経営もうまく回らなくなってしまう。高価な商品でも品質が良ければ売れないこともないので、消費者に立場に立って、より親身な販売を行っていきたい。
		ファミリーレストラン	今年は、夏に多くのリピート客があったので、今後やや良くなっていく傾向にあると思う。
		都市型ホテル	クリスマス、忘年会等の年末利用の予約状況が例年より早くなっている。
変わらない	家計	百貨店、総合スーパー	現在の景況感が年内に改善されるとは考え難い。
		百貨店、総合スーパー	ガソリン価格が多少値下りの様子が見えているが、消費者は、「またいつ値上りするのかわ」注目しており、クリスマス商戦やお歳暮商戦においても消費傾向が増加するとは考え難い。
		スーパー	相次ぐ商品の値上げにより、日配部門、食品部門の売上げがさらに低迷すると思われる。ただ、生鮮部門の更なる強化に取り組んでいて好調であるので、カバーできると思う。
		コンビニエンスストア	景気などに対する潜在的な不安が解消されない限り変わらないと思う。
		コンビニエンスストア	良くなる方向性が見出せない。景気は変わらないと判断する。景気が良くないので給料は上昇せず、いかに生活費を切り詰めるかが重要となっている。
		農産物直売所	当店にとって、食料品の産地偽装問題が収束することによる来客数の伸び悩みというマイナス面とガソリン価格が落ち着きを取り戻したことによる自動車での来店客の増加するのではないかというプラス面があり、その両面が相殺されて、結局、景気は変わらないと思う。
		都市型ホテル	諸物価の値上げがあり景気回復は難しいと思う。年末、年始にかけての予約が伸びていない。
		旅行代理店	原油価格の高騰が一段落したことにより、海外旅行客の客数の落ち込みに歯止めが掛かる可能性はあるが、世界的な金融不安の状況等からしても、この先大きく持ち直すとは思えない。
		タクシー運転手	ガソリン価格や物価高等の動きはあるだろうが、タクシーの景気は変わらないと思う。
		タクシー運転手	原油高が落ち着きを見せてはいるが、そのことがすぐには売上げの増加には結びつかない様相だ。さらに、昨今は政治のドタバタ等があり、明るい材料が見当たらない。
		タクシー運転手	ある客が「景気が良くなるとは決まてないと思う」と話していたことが印象に残っている。これ以上悪くならないで欲しいという願望も込めて変わらないと判断する。
		ドライブイン	今後、3か月を考えると、日帰りバスツアー客や地元宿泊の旅行客の増加を期待できる時期であるが、みやげ品等の購入はあまり期待できず、水戸は通過地点ようになってしまっているのではないかと考えている。
		観光名所	予約状況も例年並みに入ってきている。ガソリン価格の値上げが一段落したので、予約件数の増加に期待したいが楽観はできない。
		ゴルフ場	例年同様、景気低迷の影響と、当ゴルフ場のプレー単価が高価であるため、予約申込みに伸びが見られない。
		パチンコ店	来年から予定されている電気料金の値上げの影響がでてくると思う。また、政府の対応は必要な時期より遅れている。
		パチンコ店	現在の状況からみると、特別な変化がない限り変わらないと思う。遊技場の場合、スロットの機械性能が大きく向上するか又は客が「面白い」と感じる機械が出てこないと大きく変化することはないと思う。
		レジャー施設	ガソリンの価格が落ち着けば来館者がまた増えてくると思われるが、仮に、高騰が続いたとしても、費用が掛かる海外旅行等を敬遠し当施設が該当する「安・近・短」を選択するケースが増えると思われるため、大きな景気の落ち込みはなく、変わらないと思う。
		建築設計事務所	昨年6月から施行された改正建築基準法（建築確認・検査等の強化及び建築士等に対する罰則の強化など）及び今年11月から施行される改正建築士法（建築士に対する定期講習の受講義務付け等）の影響により、しばらく（1～2年程度）は、新築物件は減少し、既存の建物の改修や耐震診断、耐震補強の物件ばかりという状態が続くと思う。
		住宅販売会社	悪くなる要素しか見えないが、3か月では大きな変動はないと思う。
		企業	企業
運輸業（道路貨物運送業）	原材料高による経費の増加分を製品価格にすぐに転嫁できるような見通しではないようであるため。		
不動産業	大きな変化はなさそうである。		
雇用	学校就業関係者	年末に開催予定の就職説明会への企業等からの問合せが既に7月頃から何件も入っており、このことから3か月先に景気は現状維持ではないかと推測される。	

(2) 県央地域 【先行き】

(一：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	ガソリンに関しては今後値下りする見込みだが、各種商品については、まだまだ値上がり傾向にあり、ますます消費が落ち込むと思う。
		商店街代表者	諸物価が高騰し、客は買い控えをしている。また、客は購入の際、慎重に商品を検討するようになったり、即座に購入することはしなくなっており、客単価も低下していること等から、やや悪くなると思う。
		スーパー	原油など一部に値下げがあるが、政治の面に不安要素があり見通しが立たない。基本的に商品価格の上昇は変わらないまま推移すると思う。
		スーパー	商品価格の値上げが今後も実施されると予想しているため。
		自動車販売店	客に先行きの不安感があり、自動車の買い換えの間隔等が長くなってきている。
		専門スーパー	今後、年末にかけて、暖房用又は作物乾燥用の灯油が動く時期であるが、前年の同時期に比べ、販売価格が1リットル当たり40円も高い状況となっている。必ずどこかで消費者の節約行動が起こるので、消費は冷え込み、1点当たりの単価も低くなると思う。
		レストラン	景気が良くなる傾向にあるという様子は窺えない。当店では前年実績並みの売上は確保できると見込んでいるが、原材料高が予想されるため、利益高及び利益率が減少すると考えている。
		レストラン	ガソリン価格は少し落ち着くと思われるが、食料品や公共料金等の値上げにより、ますます客の財布が固くなると思う。
		観光型ホテル	アメリカの景況悪化に加え、経済発展の著しい新興国においても景況が減速気味なので、日本経済の先行きにも不安を感じる。
		レジャー施設	「燃油高騰、物価上昇が気になるので、レジャーを控え目にしなければならぬ。」という顧客の声等からやや悪くなると思う。
美容室	ここ数年、11月の売上げは年末(12月)控えているためかやや悪くなっていることから判断する。		
企業	農業関係者	原油価格の高騰により物価の上昇が続くと思う。	
	製造業(印刷・同関連業)	さらなる原材料費の値上げがあると聞いているため。	
	製造業(窯業・土石製品)	上場企業の倒産の増加により、特に不動産・建設業への融資の「貸し渋り」、「貸し剥がし」が顕著になっていくものと思われる。	
	製造業(精密機械器具)	今期は景気減速が鮮明になっていることから、やや悪くなると思う。	
	建設業	建設投資が冷え込みが予想される。	
	情報通信業(情報サービス業)	景気を大きく左右する個人消費は、例年の年度末にかけての盛り上がり期待するが、顧客の話題やマスコミ報道等からはあまり明るい機運は読み取れない。景気は引続き現状同様、下降気味であると思う。	
	サービス業(コンサルタント業)	特に飲食店においては、景気の悪化から外食を控えて家庭で食事をするという消費者心理の影響が大きい。	
雇用	人材派遣業	先行きが不透明のため、人材を増やすことに躊躇している事業所が多い。	
	求人広告	収益が伸びない一方で、物価や原材料価格の上昇等があり、経費削減を実施する企業が増加する傾向にあると思う。企業の収益減が家計への負担増となることが今後も続くと考える。	
	公共職業安定所	原油・原材料高を背景にした景気後退局面の中で、企業は製品の販売価格や受注代金に経費増加分を転嫁しきれず、収益を圧迫しているとの求人者の声を良く聞く。また、原油高は、運送業はもとより他の業種においても従業員の通勤経費(ガソリン代)の負担増となり、また、家計の負担増ともなる。したがって、個人消費へも悪影響を及ぼすものと思われる。	
	求人开拓員	先行きに不安がある。	
悪くなっている	家計	割烹料理店	客足が落ちていること及び当店の前の国道を通る自動車の数も減少していることに加え、ガソリン価格の高騰等により悪くなると思う。
	企業	製造業(食料品)	アメリカの金融不安の影響を受けると思う。
		製造業(食料品)	今後、第2弾、第3弾の値上げの要請があり、原材料費が増加するが、その分の商品への価格転嫁が十分でない。
		製造業(金属製品)	「世界同時不況」のおそれまで懸念される金融不安等の影響により、地方の中小企業の経営にも影響がでてくるのではないかと。この問題についての心理的な不安感が段々と増幅されてきているように思う。
		金融業	3か月先でも原材料高等による物価高騰が収まるとは考えられず、消費者の収入増も考えられない為、景気は冷え込むことが予想され、良くなるとは考えにくい。
		サービス業(広告業)	年末の商戦に対する販売促進予算は削減傾向にあり、2割程度の受注減少が予想される。

(3) 鹿行地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	企業	製造業（食料品）	年末商戦の動きが気になるが、例年通りであれば、お歳暮、正月用品が動くので景気は良くなると思う。
やや良く	家計	家電販売店	地上デジタル放送の受信エリア拡大（今年12月から鹿嶋局で開始予定）によるテレビの買い替え等の需要が期待できる。
	企業	不動産業	新しい内閣総理大臣の手腕により景気が回復することを期待している。希望を込めて、やや良くなるかと判断した。
変わらな	家計	商店街代表者	ガソリン価格や灯油等の冬場の燃料価格の高騰が懸念され、客の購買意欲の向上はあまり期待できない。
		コンビニエンスストア	ガソリン価格が安定・低下し始めたため、物価の上昇も一時期ほど悪化することはないと思われるが、景気が好転するような要因は見当たらないので、現状と変わらないのではないかと。
		衣料品販売店	消費者の収入と支出のバランスを考えると、何らかの対策が実施されない限り、景気が現状より良くなることはないと思う。
		割烹料理店	商品の値上げにより売上げが伸びても、仕入れ原価がかかってしまうため、収益は3ヶ月前と変わらないのではないかと。
		観光型ホテル	3か月先の予約状況は例年と変わらない。
		タクシー運転手	スーパーマーケットに買物に行って驚いた。あらゆる商品が1～2割程度値上がりしていて、逆に安くなっている商品は1つも無い。原油高によるガソリン価格の高騰や、小麦粉等の原材料の値上がり分が商品価格へ転嫁されたことによる値上げだと思われる。このところ、原油価格は下落してきているはずだが、ガソリン価格が少し下がっただけで他の商品の値下げは見聞きしない。1度値上げしたものは値下げしないのだろうか。他方では、消費税率の引き上げが論議されており、これでは景気が良くなるとは到底思えない。
		タクシー運転手	乗客との会話で、「内閣が変わっても何も変わらない」という話をよく聞く。本当に変わらないと思っているのか、諦めてしまっているのかは分からないが、あまり期待が持てないと思っている人が多いのではないかと。できるなら、そういった消極的な期待をこそ裏切るような政策を行って欲しい。
		観光名所	物価上昇の影響により、外出やレジャー経費を節減する風潮が伺えるが、中でもささやかな楽しみを望む人はいると思われるので、景気は現状と変わらないと思う。
		パチンコ店	パチンコ業界を取り巻く環境に変化は見られないと思う。
		パチンコ店	パチンコ人口の増加に対し、スロット人口は減少しているものの、商圏の総人口に変化はないので、当面景気は変わらないと思う。
		理容店	現状の景気が良くなる限り、3か月先の仕事にも収入にも変化はないように思う。
		クリーニング店	原油価格が大幅に低下するとは思えないため、現状の厳しさはこの先も変わらないと思う。
		住宅販売会社	企業の状況がまだ良い方向にシフトしているとは思えない。
企業	農業関係者	材料費の負担が大き過ぎるので、年末期であってもあまり期待できない。	
	水産業関係者	これから盛漁期となるが、漁獲規制に伴う計画生産に大きな変動はないものと考えられる。また、製品市況についても大きく変動する要素は見当たらない。	
	製造業（飼料）	飼料の原材料である穀物価格はやや値下がりしたものの、販売価格への転嫁ができていないため、売上げは大きく変わらないと思う。	
	製造業（化学工業）	当面は現状維持だと思う。	
	製造業（化学工業）	原油価格の動向と、それに対する価格転嫁次第であることに変わりはないが、需要の落込みが一過性でなく、このまま長期化することを懸念している。	
	製造業（鉄鋼業）	原材料価格の動向が気になるが、生産については、このままフル操業が続くと考えられる。願わくば、そろそろ原材料価格の上昇が止まってほしい。	
雇用	民間職業紹介業	有効求職者数が減少し、企業のニーズに適合する求職者の確保が厳しく、労働力の需要と供給のマッチングが図れないという状況に対して、あらゆる方法を用いて改善の努力を行っているが、地域の状況から勘案して、3か月後も同様の感が拭えないと思う。	
	求人開拓員	「この先3か月の間では、不景気な現状に変化はないだろう」というのが訪問先事業所の話である。	

(3) 鹿行地域 【先行き】

(一：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	国政にも産業にも元気がない。特に農業（米作）は、生産抑制のため減反政策を行っているにも拘わらず、米価は原価割れする程低い状況にある。また、転作を奨励しているが、余剰米を食料事情の良くないの国への援助物資とする等、外交カードの1つとして活用することもできるのではないか。行政は、下りのエスカレータを登らせるような施策をすべきではない。最低価格ばかりを追い求めるような社会は、いわば「錯覚社会」であり、このままでは後継者の育成も税収の増加も望めないだろう。	
		小売業（菓子販売店）	ガソリン価格の高騰の影響が大きく、今後も景気はやや悪くなると思う。	
		小売業（酒類）	商品の値上げによる買い控えは落ち着いてきたように思われるが、必要なものだけ購入するという傾向は依然として強い。景気の先行きとしては今よりやや悪くなると思う。	
		小売業（金物店）	公共事業が削減される方向に動いており、工事件数も減少すると思われるので、先行きは悪くなりつつある。また、原材料価格の高騰に伴い、商品価格が上昇しており、これが客の購入意欲の低下に繋がるのではないかと懸念している。	
		小売業（書店）	ガソリン等燃料価格の高騰により、自動車等による来店客数が減少傾向にあるため、当店のような道路沿いの店舗にとってはますます厳しい状況になると思う。	
		洋食食堂	秋以降も、食材の値上げが続くようだが、値上げ分を商品価格に転嫁することは難しいため、利益の幅は、ますます圧縮されていくと思う。	
		ドライブイン	燃料高、物価高が緩和されないため、楽観的に先を考えることができない。	
		室内装飾業	給料等入ってくるお金が少ないので、消費者は必要なもの以外にお金を使わない。この状況が変わらない限り、消費の拡大は望めないと思う。	
		住宅販売会社	様々な物の値上がりが続いているため、消費の拡大は望めない。	
	企業	製造業（食料品）	10月に原材料の値上げが予定されており、製品価格の変更は必至と思われる。だが、製品価格を上げても、売上げと利益を確保することは、この先一層困難になるのではないか。	
		運輸業（道路貨物運送業）	長期的な展望により設備投資を行うといった話は、顧客から聞かない。むしろ、統合・合併してOEM生産に切り替えるとか、物流部門をアウトソーシングして負担を少なくする等スリム化の動きが活発化してくるのではないか。	
		運輸業（道路貨物運送業）	自動車業界の景気悪化により、地元事業所の出荷量にも影響が出るのではないかと危惧する声が多い。	
		金融業	設備投資等の資金需要も希薄であり、資金繰りの改善も時間を要すると思われることから、3か月先の景気はやや悪くなると思う。	
		サービス業	顧客は、金額の大きな発注については、かなり慎重になっているようだ。よって、先行きとしてはやや悪くなると判断する。	
	雇用	人材派遣業	物価高・買い控え・生産の減少という悪循環により景気が悪化するのではないかと懸念している。景気が悪化すると、企業は必然的に労務費を削減することとなる。そして、まず最初にパート・派遣に悪影響が及ぶことになるので、これが非常に心配である。最近には特に、鹿行地区の労働市場の動向を注視している。	
		公共職業安定所	原材料価格の高騰が続く中で、国内消費の低迷により販売価格に転嫁できないため、企業収益の圧縮が続き、業況回復時期について予想がつかないとする企業が増加している。	
		学校就業関係者	当校では授業で鋼材を使用しているが、この価格が下がるの見込みがない。また、当校の生徒への企業からの求人数が、前年の同時期と比べて少なくなっていることから、景気はこの先更に悪くなると思う。	
	悪くなっている	家計	スーパー	原価上昇分を上乗せした商品が増え、販売価格が上がっている。購入者、販売者双方の負担が増している。
			スーパー	福田内閣総理大臣（当時）の辞任等、政治情勢が不安定であり、その影響が経済面にも及び景気が悪くなると思う。
スーパー			様々な商品の値上がりが相次いでいるため、この先も景気は悪くなると思う。	
コンビニエンスストア			市場の動きに対して、効果的な政府の対策等がなく、消費が上向く要素がない。よって、今後客単価が増加することも期待できない。	
農産物直売所			当店には遠方から自動車で来店する客が多いため、ガソリン価格の高騰の影響が大きいと思う。	
小売業（薬品店）			景気が良くなるような材料が見当たらない。	
日本料理店			魚、バター、小麦粉、ビール等、原材料価格の値上がりが止まらないため、仕入れ原価が収益を圧迫する状況は今後も続きそうである。原材料価格が落ち着くまで、景気回復は難しいのではないか。	
観光型ホテル			当館利用者（宿泊、宴会及びプール等）の客単価が低下しているという現状から考えて、この先も一層景気は悪くなると思う。	
タクシー運転手			物価高により、消費を控えている様子が伺える。この傾向は今後も続くと思われるので、景気は一層悪くなるのではないか。	
タクシー運転手			現在、売上げ、客数、乗車回数とも減少傾向であることから、3か月先の景気も悪くなっていると思う。	
クリーニング店			物価が上がっており、先行き不安のため、客の財布のヒモは今以上に固くなると思う。	
企業	製造業（印刷・同関連業）	見積り依頼等が減少している。		
	建設業	鹿嶋市大野地区の市街化調整区域指定により、建築着工件数の減少が更に進み、建設業界の景気はますます悪くなると思う。		

(4) 県南地域 【先行き】 (－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント	
やや良	家計	スーパー	ガソリン価格が低下してきている。今後も更に低下し、1 当たり150円程度になることが期待でき、景気もやや良くなる方向に向かうと思う。	
		ゴルフ場	ゴルフ場はこれからオンシーズンとなる。予約件数も増加している。	
	企業	運輸業（倉庫業）	「生産→保管→出荷」が業務の流れの中で「生産」についても、全てではないが増加の見込みである。輸出及び輸入品に関しても、前年の同時期と同様か、それよりも増加する方向で行くと思われる。今のところ、生産調整の話もないので、ある程度良くなるのではないかと思う。	
変わらない	家計	コンビニエンスストア	政治や経済政策等不透明な情勢において、個人消費が回復する傾向は見られない。依然として、消費者の財布のヒモは固く、客単価や売上げの増加は見込めない。	
		衣料品販売店	食料品等の価格高騰により、衣料品に回すお金がないという状況は今後も変わらないと思う。	
		ガソリンスタンド	今月に入り、原油も値下りしつつあるが、顧客の話等からすると、全体的に消費は控え気味になるのではないかと思う。	
		タクシー運転手	企業においては、経費の節減は当然のこととして、サービス残業やリストラの話をよく耳にする。このような現状では、まだ良くなるとは考えられない。	
		タクシー運転手	現状が良くなるような材料は何もなく、景気は変わらないと思う。	
		住宅販売会社	金利動向次第だが、あまり変わらない気がする	
	企業	製造業（印刷・同関連業）	受注量は横這いであり、また、物価は上昇するが、ガソリンなど多少値下りしているものもでてきていることから変わらないと思う。	
		製造業（窯業・土石製品）	原材料価格の高止まりは今後も続き、景気は変わらないと思う。	
		製造業（一般機械器具）	原油価格は若干低下したものの、原材料価格の高騰は続いており、食料品等の値上げは止まらないように思う。	
		建設業（設備工事業）	工場の改修工事、学校関係の耐震工事等の案件について、見積り、引合い等が少しずつ出てきている。ただ、仕事量がまとまると、大手企業に一括受注されてしまう傾向がある。また、来月から原材料のうち、ビニール製品等の値上げが予定されていることから利益率は減少するように思う。	
		建設業	原油及び鋼材価格が不安定であるため。	
	雇用	求人広告	物価が多少値下りしても、現状の価格が高すぎるので、それを取り戻すには時間が必要である。	
		公共職業安定所	今のところ、様子見の事業所が多い。中長期的には分からないが、年内はこのまま横這いの状況が続くと推測される。	
	やや悪くなっている	家計	商店街代表者	主たる顧客である中高年層が、将来への不安から財布のヒモを固く結んできてきているように感じる。また、政治にも明るさが見えない。そういった状況下にあっては、悲観的な判断にならざるを得ない。
			スーパー	食料品の原材料価格の高騰が今後も予想され、また、原油価格も高値で安定しているので、食料品の買い控えが考えられる。
スーパー			物価の上昇が止まらない。	
スーパー			大手スーパーマーケットの出店により客の奪い合いになることが予想され、当店の客数は減少するものと思う。	
家電販売店			来客数の減少傾向が今後も継続すると思われるので、景気はやや悪くなると思う。	
自動車販売店			今後も燃費の良い小型車や軽自動車の需要が高まると思う。	
農産物直売所			原油価格が多少下落したとはいえ、小麦やその他食品の価格上昇は続いていることに加え、今年は集中豪雨（ゲリラ豪雨）等の天候不順の影響で秋野菜の不足等が見込まれ、見通しは暗い。	
専門スーパー			9月に入り、ガソリン価格等の値下げがあったが、10月からは電気料の値上げがあり、また、消費者に直接影響のある食料品の価格は再度の値上げが発生している。さらに、地元の分譲マンションの販売も厳しいと聞いている。景気はやや下降気味になると予測する。	

(4) 県南地域 【先行き】 (－: 回答が存在しない。 ○: 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
やや悪くなっている	家計	寿司店	市場等でも相変わらず商品の値上りは続いている。業種によっては「10月から値上げとなる」というお知らせを配布しているところもある。まだまだ、原材料高が続きそうである。
		都市型ホテル	今後も、客は安価な商品を選択する傾向が続くと思う。
		旅行代理店	ガソリン価格高騰の影響に加え、他の諸物価の上昇が続くと予想されるので、旅行を控える客が多くなると思う。
		旅行代理店	努力して様々な商品を打ち出しても報われていない。今後も、海外旅行を中心に厳しい状況が続くのではないかと思う。
		ゴルフ場	燃料、肥料、施薬等の価格の上昇に伴い、全体的に沈んだ空気になっている。
		パチンコ店	良くなる話が全くない。
		ゲームセンター	イベント等を行っているが、問合せ件数が少ない。
		美容室	アメリカの証券会社「リーマンブラザーズ社」の経営破綻等のアメリカ金融不安、社会保険庁による年金記録改ざん事件、税制改革問題、物価高等の影響により日本経済の先行きに不安がある。
		建築設計事務所	設計業務の問合せがなく、設計に付随する雑務が多くなってきている。
	企業	農業関係者	農家では、資材価格等が上昇している状況の中で、「来年に向けて作付けを行うべきかを考えてしまう」という人が多くなってきている。「ビニールハウスで暖を取る作物は赤字になることが明らかなので、稲、麦などの普通作にする」と考えている人もいる。酪農家でも、飼料価格の高騰を回避することができず、政府の政策に委ねるしかないという状況である。今も景気が悪いが、先も良くなる要因がない。
		製造業(食料品)	製造する食材がより多品種化してきており、利益率が悪くなる状況にあるので、良くなるような兆しが見えない。
		製造業(食料品)	客数が減少しており、原材料価格や物価の上昇もあって景気が悪くなると思う。
		製造業(飲料)	値上げ品が多い。
		金融業	仕入原価が高騰し続けているため、今後3か月での景気回復は難しく、逆に悪化するのではないかとこの声を多く聞く。
		不動産業	所得の目減りや、生活必需品価格の高騰等による買い控え傾向により客の現況が悪化しているため、悪くなると思う。
	雇用	人材派遣業	人員が落ち着いている企業が多く、短期的な受注が増加する見込みである。
		雇用相談員	物価が上昇基調にあり、景気の悪化は避けられない。
	悪くなっている	家計	スーパー
和食食堂			諸物価の上昇や政治の不安定さで先が見えない。
都市型ホテル			宿泊の予約が減少している。宴会予約での料理の単価が低下している。
レジャー施設			客はお金を浪費しないようになっている。
美容室			土浦駅ビルの閉店、図書館の建設先送り、マンションの売却難といった地元の重いムードが消費客にマイナスイメージをもたらしているような状況がある。
企業	製造業(窯業・土石製品)	アメリカの証券会社「リーマン・ブラザーズ社」の破綻による影響から、円高、株安等が懸念される。また、近いうちに衆議院の解散・総選挙が予想され、経済対策等が遅れることが懸念される。	
	製造業(非鉄金属)	「3か月受注インフォメーション」によると、直近で発注量・金額ともに減少傾向にあり、月次決算でも収益確保が厳しい状況にある。こうした状況を踏まえて一層の経費削減に力を入れて取り組んでいるところである。	
	建設業	現在、工場の新築工事の設計を実施中である。しかし、施主から、「(施主の企業の)事業業績の先行きに不安があることから、この工事の取り止めを含めて検討をしている」との話があり、とても心配である。	
	建設業(設備工事業)	当社のような零細企業では、従業員の高齢化に伴う給与等の経費の増加等の影響によりかなり厳しい状況になる。また、地元の在来工法の工務店が、ハウスメーカーや建売業者に押されて工事の請負を受注することが困難であるため、当社の一般工事の受注も減少しつつある。	

(5) 県西地域 【先行き】

(ー：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	タクシー運転手	新内閣総理大臣に期待している。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	近いうちに実施されると言われている衆議院議員総選挙が終われば、一応社会が安定して、消費も拡大するのではないかと期待している。
		衣料品販売店	商品の「安さ」を武器とする当社においては、景気低迷に伴うメーカーの業績不振がかえって商品を安く仕入れることのできる好機となり、客に良い商品を安く提供できる状況になってくると思うので、売上げも良くなると思う。
		和食食堂	例年、12月には忘年会の予約が入るが、客が忘年会に掛ける費用は低下し、客単価は低下すると思う。しかし、客に来店してもらえぬ努力を続け、少しでも良くなるようにしていきたい。
企業	製造業（食料品）	原油価格の高騰も緩和しつつあり、長い目で見ると原材料及び輸送にかかる経費が減少すると思う。	
変わらない	家計	スーパー	物価の上昇により、客は必要な商品しか購入しないようになってきており、3か月後も現況と同様であると思う。
		コンビニエンスストア	原材料価格や物価の高騰が継続することが予想されるが、そのことが消費者の心理に影響を与え、合理的に買物をしようとする消費者がますます増加すると思う。
		家電販売店	内閣総理大臣が代わっても、現状を続けることがやっとならないかと思う。
		和食食堂	景気の悪化も下げ止まりを見せてきているような感じがする。
		都市型ホテル	内閣総理大臣が代わってもすぐには景気が良くなるとは思わないが、新総理大臣に景気を良くなるよう頑張ってもらいたい。
		タクシー運転手	連続していた諸物価の値上げも落ち着いてきたようであるが。相変わらず、低収入、高支出の状況であり、「家計に余裕はなく苦しい」という声が多く、景気が上向き要素は思い当たらない。
		ドライブイン	今月に入りガソリン価格が低下しているが、この先どうなるかは分からない。また、ガソリン以外にも原材料高が今後も続くようであれば、景気は良くなるとは思われない。
		ゴルフ場	現在の状況から考えて変わらない。
		ゴルフ場	原油価格の高騰は落ち着くようであるが、景気はほぼ横這いに推移するのではないか。
		ゲームセンター	当店は常連客の多い店舗なので、3か月先も今月とほぼ同じ客単価であると考えられる。また、3か月先の売上げの前年同月比も今月の場合とほぼ同じであると想定している。
		レジャー施設	新政権になり、景気の安定を期待する。
		理・美容店	徐々に気温が下がってきているが、ここ数年は、秋から冬にかけて日中の気温が高めで暖かい日が多いので、客の来店間隔は変わらないと思う。
		住宅販売会社	悪くなるかもしれないが、原油高が止まったこともあり、そう大きな変化はないように思う。
企業	農業関係者	前年度と同じ程度の売上げを見込んでいる。	
	製造業（印刷・同関連業）	麻生新内閣総理大臣の下で、日本を、茨城を少しでも好景気にするような政策を1日でも早く実現してもらいたい。景気を良くするための要素として政治は重要である。	
	製造業（電気機械器具）	仕事量が回復する見込みが不透明である。	
	運輸業（道路貨物運送業）	3か月後も受注量は変わらないと思われる。ただ、その後はやや良くなるのではないかという情報もある。	
	製造業（印刷・同関連業）	良くなる可能性はあるのかと不安に思う。	
雇用	人材派遣業	仕入れ経費が減少するとは考え難く、現況と同様であると思う。	
	求人広告	年末に向けて、大きな求人対策を取る企業が少ないので、変わらないと思う。	
	学校就業関係者	授業で使用する鋼材の価格は今後横ばいが続き、まず値上がりはないとみている。一方、溶接棒の値上げは決まっているため、景気がよくなる見通しもない。	
	就職相談員	ガソリン価格が少し低下してきたが、一度上昇した商品の価格は低下しないだろう。先行き不安の「ど真ん中」なので、景気は横這いだろう。	

(5) 県西地域 【先行き】

(ー：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
やや悪くなっている	家計	スーパー	商品の値上げや食の安全の問題が影響して、前年の同時期と比べると厳しいと思う。
		コンビニエンスストア	今後も食料品や生活必需品の値上げが予測され、より買い控えが進むと考えられる。
		農産物直売所	景気が良くなるような要素が見当たらない。原油価格は少し低下してきているが、世界的な金融不安の影響により景気はやや悪くなるのではないかと。
		和食食堂	原材料の値上りが続いており、また客は飲食費を節約する傾向にあることからやや悪くなると思う。
		和食レストラン、割烹	政治が不安定になっていることもあると思うが、消費者の財布のヒモは固い。まずは政治が安定して景気をよくしてもらいたい。
		多目的ホール	宴会については年末の予約が入りつつあるが、物価高による経費削減が客（企業及び個人）の出費を抑えていることで客数、客単価の減少が見られる。また、居酒屋等の飲食店が低価格料金を打ち出してきており、客がそちらに流れる傾向がでてきているので、やや悪くなると思う。
		ドライブイン	原材料品の価格上昇が止まらないと思われるが、それによる経費の増加分を商品価格に転嫁できない面があり、利益の減少が考えられる。また、アメリカの大手証券会社「リーマンブラザーズ社」の経営破綻等の金融不安等により全世界的な景気後退局面が予想されている状況の中で景気の好転は望めないと思う。
		パチンコ店	ガソリン高、物価高等の影響により自動車の使用頻度の減少が予想されるため、ファミリーレストラン等の商圏が広いタイプのサービス産業と同様に客数の減少が予想される。
	企業	農業関係者	最近になって原油価格の高騰も収まりを見せた様子だが、2年前と比べるとかなり高い。多少値下げとなっても、生活物資の値下げに至るまでは時間が掛かると思われる。また、各資材の価格が10月からまた値上げされることもあり、生活は今以上に圧迫されるであろう。
		製造業（食料品）	客はブランド品よりも価格の安い商品を好むようになっていくと思う。
		製造業（化学工業）	景気が上向き要素が見当たらない。
		製造業（窯業・土石製品）	明るい見通しが見当たらない。特に、石材の消費の大きい霊園に動きが少ないのでその影響が大きい。
		製造業（金属製品）	得意先の発注形態の関係で受注が減少する見込みである。
		金融業	物価高騰が続き、将来への所得増加の期待も見込めず、景況感の改善・伸びは暫く望めないと考えられる。
不動産業		来店者数が減少傾向にある。	
雇用	公共職業安定所	原材料価格の高騰等による先行きの不透明感があり、求人への減少は続くと思う。	
悪くなっている	家計	スーパー	ガソリン価格の高騰や諸物価の相次ぐ値上げ及び増税等、景気悪化の不安のある要因が重なっており、客はより一層生活防衛に走るようになると思う。
		自動車販売店	先行きが不透明な状況の中、政府の対策が後手後手に回っている。
		ガソリンスタンド	ガソリン価格は高止まりとなり、原材料価格は引き続き高騰すると予想される。
		旅行代理店	10月、11月は秋の旅行シーズンだが、団体旅行・個人旅行ともに受注が低調である。
		理容店	全くと言っていい程、良い話は聞かなくてこない。
		建築設計事務所	建築業界においては、例年であれば、今月あたりから年明けからの仕事の引き合いがあるのだが、今のところわずかな物件しかきていない。景気の低迷により、建築するのを控えている建主が多いと思われる。また、銀行のローンの審査に時間がかかるケースもあるようで、動きの鈍さに繋がっていると思う。
	企業	製造業（窯業・土石製品）	現時点が良くないので、3か月先は期待できない。しかし、何らかの要因で急に注文が入ることがあるので、常に準備は万全にしておき、注文があれば「いざ、鎌倉」の気持ちで客に必要とされる製品を創り上げたいと考えている。
		製造業（一般機械器具）	近月の売上げが減少しているので、悪くなると思う。
		建設業	受注量の減少に伴う原油等の価格の値上りを工事費に転嫁が困難であること、設備投資の意欲が減退していることに加え、福田内閣総理大臣（当時）の突然の辞任等により、ますます景気は後退すると思う。

Ⅲ 景気の判断コメント — 3 その他の意見

(1) 県北地域

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	商店街代表者	一般消費者の買い控えが顕著である。
	スーパー	客は、衝動買いや余分な物を買わなくなった。
	スーパー	ガソリン価格の高騰等により遠出が少なくなったせいか、土・日・祝日の家族客が増加している。
	コンビニエンスストア	行楽地、道路沿いに立地するコンビニエンスストア店舗の売上げは継続的に厳しい状況である。また、消費者は支出を抑える傾向が強い中で、水道・光熱費が上昇した。特に食品及び衣料品に対しての支出を抑制する傾向が強い。さらに、スーパーマーケットの特売品（目玉商品）の点数が減少してきており、企業努力の難しさを感じる。
	コンビニエンスストア	客の消費行動が「最低限必要な物のみ購入」という傾向にあると認識していたが、開店セール等の催事の際には、心理的要因から瞬間的にはあるが消費が活性化するようである。今のような厳しい状況のときこそ積極的な経営が必要ではないかと考えている。
	衣料品販売店	原材料等が値上りしても販売価格に転嫁できないので、利益が減少している。
	衣料品販売店	「目的買い」の客が中心になり、時間浪費型の客が減少している。今後は、さらにこのような厳しい状況が続くと思う。
	家電販売店	今後、卸し価格の上昇が予想され、販売価格に転嫁せざるを得ない。これまで大幅な値下げで売上げを伸ばしてきた薄型テレビの販売動向を懸念している。
	農産物直売所	今月13日に袋田の滝の新しい観瀑台がオープンしたことに伴い、観光客が増加している。複数の家族等が1台の自動車に乗り合わせて観光に来ている姿が多く見受けられるようになった。
	ガソリンスタンド	「客がお金を使わなくなっている」と多くの業種で嘆いている。
	小売業（酒類）	インターネット販売を行っているワインの売上げは順調である。特に高価なワインが良く売れている。
	小売業（水産物）	同業者からも異業種の方からも景気の悪い話が多く聞かれる。ガソリン価格の高騰等の影響により他県からの自動車での来客数が減少した。
	レストラン	経営努力は行っていくが、景気が良くなってくれることを祈るばかりである。
	居酒屋	休日に外出して飲食するという様子があまり感じられない。
	居酒屋	物価等の値上りで景気は良くない。
	スナック	何もかもが価格高騰で客の飲食の回数が減少している。また、この付近での夜間の自動車の通行量が少なくなってきた。
	和食食堂	今年の夏は、北京オリンピックのテレビ放送等があった影響か、外出する人が少なかったようで、売上げは前年より増加した。
	観光型ホテル	消費者は、自分自身が本当に満足する物しか求めないようになってきていると思う。
	観光型ホテル	先月（8月）は来場者数も売上げも予想以上となったが、みやげ品等の売店の売上げは来場者の割には少なかった。客はあまりお金を使わない傾向にあると思われる。
	タクシー運転手	ゲリラ豪雨等、天候が不安定な日が多いので夜間の営業に影響がでてきている。
	タクシー運転手	地元企業に勤務している客から聞いた話では、「深夜残業の規制が現在も続いている」と言うことである。
	ゴルフ場	毎日が異常気象と思われるような、気温、集中豪雨、風等の気象状況及びマスコミ報道による正確な気象予報により人の動きが大きく左右される傾向が強く感じられる。気象予報については、従来は広範囲にわたる予報が一般的であったが、最近ではスポット的な予報も多くされるようになり、その予報次第で人の動きも変わるので、その動きが景気の動向に強い影響力を持ってきていることに不安を感じている。また、各企業等の株の動きをみると、全体的に下降傾向にある中、あるテーマパークは、夏休み中、株が上昇傾向にあることが目に付いた。さらに、夏休み中の旅行については原油価格高騰の影響か、海外旅行が減少し国内旅行に切り替える傾向にあると聞いた。身の回りの変化等を、敏感に捉えて判断することの大切さを感じている。
	パチンコ店	顧客等を見ると、あまり大きな買物をせず、自分の満足できることにお金を使い、余暇を楽しむ傾向が見られる。
ゴルフ場	来場料金の低料金化の動きが加速している。セルフデーの軽食サービスが好評で、今後も継続される見込みである。	

(1) 県北地域

家 計 関 連	レジャー施設	客が施設内に持ち込んだ飲食物のごみが多くなってきている。客のニーズが多様化してきている表われでもあるが、より安価な消費を求める傾向であるとも受けとれる。
	ゴルフ場	明らかに「バスバック」の需要が伸びている。油価格高騰の影響なのか、あるいはエコロジー意識の浸透なのであろうか。
	美容室	大規模店舗や町工場が減少してきているが、マンションやアパートがものすごい勢いで建設、建築されているので、商売としては好機ではないかと捉えている。
	美容室	物価高や収入減等の話ばかりで好材料はないが、夏休み期間中に開催された各種イベントには多くの人も出もあり、その時期の売上は良好であった。
	クリーニング店	金曜日の夜や月末の夜にガソリンスタンドに長蛇の列ができる。ひどい時には給油待ちの車両で道路が渋滞する。
	住宅販売会社	現在の不景気等の社会状況から、買い控えをする客が増加している。
企 業 関 連	林業関係者	今月に入り燃料価格が下がったが、多少であっても景気が良くなることを期待したい。
	水産業関係者	水産業界にあつては、全国の漁船が一斉休漁する等「燃油の高騰」が大きな問題となっているが、地域や種類によっては燃油価格の高騰による経費の増加を吸収できる漁業もある。幸い、地元の漁業組合の所属船の漁業者は、現在ではこの経費を吸収できている。好漁であることは、船ばかりでなく地元の港町全体の景気に良い結果をもたらすものである。
	製造業（食料品）	周囲では、節約や買い控えの傾向が広がってきている。
	製造業（電気機械器具）	製造業者は全ての業種において、景気回復の兆しが見えてこない不安が増大している。当社も含め、各社、付加価値を高めるべき手段を考え、実行している。
	製造業（電気機械器具）	新聞の折りこみ広告には、食料品・衣料品・家電品に関するものが多く、特に食料品については、毎日のようにスーパーマーケット等の折りこみ広告が入っている。近隣の大規模スーパーマーケットの駐車場に出入りする車は途切れることがない。その一方で、小さな食料品店が店じまいを余儀なくされている。物価高は、業種を問わず格差社会的な問題等を増加させていくように思える。
	製造業（電気機械器具）	ガソリンの価格が下がって一安心というところだが、まだ高いと思う。
	製造業（電気機械器具）	「できれば今の仕事を辞めたい」と言っている会社もある。「辞めるに辞められない」と皆嘆いていた。当社の周囲では、特に建設業の経営が大変なようである。
	製造業（電気機械器具）	街の中心地にマンションが勢い良く建設され、住民の移動も予想されたが、景気の落ち込みもあり販売の勢いは止まってしまったように見受けられる。
雇 用 関 連	金融業	日立市内に5棟のマンション建設が進められている影響なのか、不動産取引のうち、土地売買が以前より少ない様子である。
	不動産業	地元では、建設中のマンションを手がけている総合建設業者が民事再生法を申請中である。総合建設業者を取り巻く環境が急速に悪化しているように感じる。行政面での緊急対策が必要な時期と感ずる。
	人材派遣業	政治への不満が募りやりきれない毎日である。友人が集まれば「どうしたら節約できるか」知恵比べをしている。
雇 用 関 連	求人広告	製造業において、派遣労働者を企業が正規採用しなければならなくなる「2009年問題」等があり、年末に向けて厳しい業者がでてくるであろう。
	求人開拓員	情報通信産業では、受注できるビジネスがあるが人材不足のため、受注を抑えざるを得ない。人材が確保できれば、どんどんビジネス拡張できる」とのことである。

(2) 県央地域

	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	商店街代表者	この夏、同業者の倒産や閉店が相次いだ。原因としては長引く不況や消費動向の変化に付いて行くことができず、販売不振となったようだ。
	商店街代表者	7月1日からタスポ（成人識別ICカード）がないと自動販売機でのタバコの購入ができなくなり、タスポがない人は店内で購入するしかなくなった。当店では自動販売機の売上げは約70%の減少であるが、店内販売の売上げが約50%増加しており、全体の売上げは約20%の減となっている。タバコを店内で購入する客数は、曜日によっては10倍以上に増加しているが、購入商品はタバコに限られているのが現状である。タバコ購入客が他の商品まで購入するようになると販売増となる。タスポ導入により、コンビニエンスストア等では店内来店客が増加し、販売増となっているところもあるようだが、タスポ導入の趣旨が、青少年の健全育成の一環として、未成年者にタバコを購入させないということにあるのなら、店内販売においてもタスポや免許証の提示を求め、成人であることを確認して販売すべきではないか。
	百貨店、総合スーパー	客は高額品の品定めにはじっくりと時間をかけて購入している。
	スーパー	小麦粉の値上りによりパンの価格が上昇したが、その一方で米の売上げが良い。今年はお盆の時期の買物動向に変化があり、お中元とお盆の手みやげとが1つになった感がある。
	スーパー	今年の夏は暑さが厳しかったので、飲料、アイス等の売上げが増加した。
	コンビニエンスストア	客は購入する商品をより慎重に選ぶようになってきている。
	コンビニエンスストア	調味料等の従来は大規模小売店でしか売れなかった商品がコンビニエンスストアで売れてきている。また、地元の歓楽街の飲食店に勢いが無い。居酒屋での客数が減少しており、自動車運転代行がすぐに見つかるようになった。
	自動車販売店	当店への車検依頼台数が減少している。自動車を手放しているのか、乗らないので車検を取らないのかは分からない。ユーザー車検等が増加しているのだろうか。
	農産物直売所	顧客の来店の間隔が短くなってきている。スーパーマーケットから農産物直売所へと客が移行してきているのではないかと。
	専門スーパー	客のエコロジー及び節約に対する意識が更に高まってきているようである。雨水を貯めるタンク等の節約に関する商品の売上げが増加している。また、5月頃よりガソリン価格の高騰に対する生活防衛として、自転車（特に電気自転車）等の商品について売上げが増加してきている。
	レストラン	企業による経費での利用が減少している。また、個人消費も減少してきている。
	レストラン	外食を控え、家で食事をする内食が増加の傾向にあることに加え、スーパーマーケットやコンビニエンスストアでは、家庭での食事向けの新品を開発し販売すると聞いている。ますます外食産業が厳しくなることが予想される。
	ファミリーレストラン	商品が売れる店は残り、売れない店は潰れている。とても厳しいと感じる。
	都市型ホテル	食材等諸物価の値上げが続いているが、商品への価格転嫁ができず大変な状況にある。
	観光型ホテル	減少していた企業の研修や社員旅行等の引き合いが戻りつつあるが、自腹での消費を抑えようという傾向があるのではないかと。
	タクシー運転手	ここ最近、飲食店の貸し店舗の募集が目につく。
	タクシー運転手	政治の不安定さや物価の高騰等があり将来に期待が持てないという話をよく聞く。
	タクシー運転手	多くの人が家計防衛策を練って、それを具体的に実践していると聞いている。私自身も酒席の数が減り、更に自家用車を手放し、バイク通勤に切り換えて支出の軽減に努めている。ひどい世の中になったものである。今の年取では生活ができない。タクシードライバーを助けて欲しい。
	ドライブイン	昨今の価格高騰の影響もあり客の購買力も低下しており、当店の客単価も低下している。
	観光名所	高額商品の売上げが相変わらず鈍い。
	ゴルフ場	3か月前と同様に、原油高等の要因により、消費者の外出控え、レジャー控え等が見られる。これらの影響により、当ゴルフ場も支出が増加し、収入は減少している。収支の均衡を図ることができず、経営的にも厳しい状況が続いている。
	パチンコ店	客は消費するお金を少しでも減らし、少しでも効率の良いお金の使い方を考えているように思う。皆、必要以上の投資はしないよう皆考えながら遊技しているように思う。したがって、客単価の低い「1円パチンコ」等の稼働は安定している。
	レジャー施設	今年の夏は天候に恵まれたが、海水浴客の出足は昨年より減少したと聞いている。

(3) 鹿行地域

	業種・職種	その他の意見
家 計 開 連	商店街代表者	この不況ムードを脱却するため、自ら改革を図ることができれば、日本は、子・孫の代まで安泰に暮らせるだろう。日本にはそれを実現できるだけの良い条件が揃っており、将来性はあると思う。しかし、最近では子供達の小遣いも減少し、消費は冷えきっている。今の子供達は、将来に対し希望を抱くことができるのだろうか。現実的な希望を未来に抱くよう導く教育は最大限に重要だと思う。そして将来、子供達が、それぞれ自分に合った職業に就くことができれば、とても幸せなことだと思う。
	商店街代表者	今年は、花火大会等の夏のイベント事業が天候に恵まれ、かなり多くの人出があった。商店街の売上げ増等、消費拡大効果は大きかったが、主催者側の寄付金集めは厳しい状況にあるようだ。
	スーパー	客は余分な商品を購入しなくなってきた。また、弁当や惣菜、鮮魚（刺身）等を半額で見切り販売する時間になると、見切り品目当ての客が以前より多く来店するようになった。閑散としていたレジも、その時間になると途端に忙しくなる。
	スーパー	客の多くが「商品の価格が上がった」と話してくる。
	スーパー	客の購買は日替わりの目玉商品のみ集中し、それ以外の商品の売上げ点数が減少している。
	家電販売店	鹿行地域では今後、地上デジタル放送が受信できるエリアが広がっていくため、客の期待感が高まっているが、実際に受信が可能になるまで地デジ対応テレビの購入を控える客が目立つ。高額な商品だけに、購入には慎重になっているようだ。
	小売業（金物店）	自治体によっては、「当該市町村内に所在する業者から物品を購入する」と規定しているところがあり、なかなか、営業活動が行いづらい。また、当店の近隣に、また大型店舗ができるということなので、こちらの影響も心配である。
	衣料品販売店	以前に比べると、2、3時間の短時間でも働きたいという主婦層や、本業と掛け持ちで働きたいという会社員からの問合せが増加したように思う。物価が上昇する中、少しでも家計の足しにしたいということなのだろう。
	洋食食堂	当店の近所の飲食店が、立て続けに2件閉店した。旧市街地のシャッター通り化もますます進行している。時代の変化に対応できなければ、商店の淘汰は避けられないだろう。
	割烹料理店	周辺では、「ガソリン価格が上がっているため自動車での外出を控えている」という話を聞く一方で、新築住宅が多く建ち始めた気がする。
	日本料理店	顧客からは「仕事の先行きが見えない」という話をよく聞く。また、スーパーマーケットの値引品コーナーに以前よりも多くの人が集まっており、消費者は価格に対してかなり敏感になってきていると思う。そんな中、地元のガソリンスタンドでは会員割引率が5%から3%に引き下げられてしまった。
	タクシー運転手	住宅地で営業をしているのだが、ワンメーターだけ乗車する客が更に増加したような気がする。あと少し走るとメーターが進むという手前で降車する客も多い。生活防衛の意識がかなり強くなってきていると思う。
	観光名所	ガソリン価格の高騰等により、前年の同時期と比べて、自動車での来客数の減少が顕著である。周囲の人を見ていても、財布のヒモの締め付けが固くなりつつあるように感じられる。
	パチンコ店	食料品の値上げや政治に対する不信感等のため、将来の生活に不安を抱いているという話を客からよく聞く。また、ゲリラ豪雨や雷雨等、最近の異常気象に対する不安もよく耳にするようになった。
クリーニング店	今年の夏は好天が続かず、農家は厳しい状況にあるようだ。野菜は生育が悪く収穫量が少ないうえに、思うような卸値が付かない。米は、雨が多いため、稲穂が折れてしまったり、ぬかるんで刈入れができない状態の田んぼもあるらしい。酪農家も飼料価格が高騰する一方で、牛乳の価格は上がらず、経営は厳しいようだ。また、近隣の縫製会社では、中年社員を対象としたリストラがあったと聞く。周辺の人達の様子を見ても、遠出をしなくなった等、生活を防衛するための様々な変化が伺える。	
室内装飾業	以前は、車で走行しているとよく道路工事を見かけたが、最近はほとんど見かけなくなった。	
企 業 開 連	農業関係者	漁業関係者が行ったように、農業関係者もストライキを行いたい気持ちである。今後の行政の対応に期待したい。
	製造業（食料品）	政治不信が強まり、投げ出された感のある社会を思うと、景気が良くなるという期待は非常に薄い。「無駄な物は買えない」を心情に生活するのが精一杯であるように思う。
	製造業（化学工業）	食料品の品薄状態が続き、需要のあるものが手に入りにくいと感じることがあった。
	製造業（化学工業）	設備投資計画の見直し、経費削減等、できることは実行に移しているが、過去にもかなり効率化を進めており、これ以上の効果はあまり期待できないと思う。
建設業	景気が悪い話ばかり聞こえる。このままでは、税金も払えなくなるのではないかと心配である。	

(3) 鹿行地域

企 業 関 連	運輸業（道路貨物運送業）	10月に地元で運動会があるが、町内会には1人暮らしの高齢者世帯が増加しており、選手選考に苦慮している。子供や若者が減少しているため、一部の競技は不参加とせざるを得ない。ここ数年、スポーツを通じて皆で汗をかき、楽しい時間を共有しようという気持ちが薄らいできているように思う。
	運輸業（道路貨物運送業）	軽油の値下がりや一部業界の燃油サーチャージ制導入による運送単価の上昇で、ひと安心していましたが、自動車業界の景気悪化に伴う地元事業所からの仕事量の減少懸念がでてきて、経営面では落ち着くことができない。
	金融業	貸出金の返済額の軽減に関する相談が増加している。
	保険業	燃料価格が上昇している以上には生産者米価は上昇していない（コシヒカリ60kg当たり14,000円程度）。また、地元自治体では人口の減少が止まらない。
	不動産業	不動産業界では、2月と8月は来客数が少ないと言われているが、今年は、お盆月である8月も来客があり、賃貸・売買とも他の月と変わらない動きがあった。
	サービス業	企業の設備投資が抑制されていると感じる。
雇 用 関 連	民間職業紹介業	最近、当地域においても、日本人労働者が確保できないこと等から、外国人労働者が増加してきているように思われる。
	求人開拓員	求人募集は行っているが、「良い人材がいれば将来のために採用しておきたい」という程度の採用に積極的でない事業所が増えている。

(4) 県南地域

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	商店街代表者	中小小売店は死活状態に追い込まれているのが現状である。マスコミが大挙してネガティブな報道を行うのも考えものである。しかし、商店街としては、将来を信じ、様々な方策を講じてマイナスを少しでも食い止めていきたい。
	スーパー	食料品の原材料、鶏卵、食用油等の価格上昇のため、惣菜の売上げが伸び、また、特売品構成比が高くなっている。
	スーパー	1人当たりの購入個数に制限のある特売品を、何度もレジに並んで購入する客が増加してきた。
	スーパー	プライベートブランド商品の動きが良い。
	スーパー	値上げした商品及び価格据え置きで量目を減らした商品が増加してきている。
	スーパー	商品の値上げの流れは急には変わらない。鶏卵まで値上げとなった。
	家電販売店	電化製品の持込修理の客が増加の傾向にある。
	農産物直売所	土・日・祝日において他県ナンバーの自動車による来客者が減少した。
	ガソリンスタンド	運送業界で倒産が相次いでいる。
	洋食堂	顧客である年金で生活しているある夫婦は、よくランチで外食するが、その際には、値段が安くおいしい店を探してから出掛けているとのことである。高級店には行きたくてもいけないし、食事を作るのも面倒で弁当を買うことも多く、またスーパーマーケットには夕方の商品値下げの時間帯に出掛け、翌日の食料まで購入しているということである。
	都市型ホテル	婚礼においても、クオリティの高いプランより特典や値引きのあるリーズナブルなプランでの受注が多い。一般の宴会でも、客との打合せの際、プラン料金を更に値引くよう要求されることもある。
	都市型ホテル	地元の古いホテルや旅館が撤退したり廃業に追い込まれている。ホテルも商店も規模の大きいところと小さいところの格差がどんどん広がっている。地元の近隣地区との格差がひどい。
	タクシー運転手	このところ、政治や政治家の話題が多くなっている。様々な負担増により国民の生活は厳しさを増しており、それらに対する不満等の矛先が今まで以上に政治に向けられているように思う。
	ゴルフ場	燃料、肥料、施薬等の基本的な物品の値上がりが少しずつ経常経費を圧迫している。自助努力だけではいかんともし難い部分がある。
	ゴルフ場	平日の来場者は増加しているが、客は相変わらず料金についてはシビアである。客の動きは活発になってきているが、財布の中身は厳しいようだ。
	パチンコ店	よく外食をするが、どこへ行っても、以前と比べて客が減少している。
	ゲームセンター	コンビニエンスストアでは来客数が増加しているように見受けられる。
	美容室	ガソリン高による自動車の使用の減少や物価高による生活水準の低下等が見られる。
	美容室	当店の現状は下降気味であるが、「ピンチはチャンス」と捉え、他店との違いを出し、顧客のカルテ整理等を行いダイレクトメール送付して再来店を呼びかけたり、チラシを配布して新規顧客の獲得に努めており、スタッフが一丸となって真剣に日々の業務に取り組んでいる。各商店の経営者は、経営に対する意識をしっかりと持ち、誇りと自信を持って未来を考え、どんどんアイデアをだしてそれを実行に移すことが必須である。地元では「土浦元気市」、「ミニ産業祭」等が開催され、土浦駅前、中心地、亀城公園等において多くの家族客等で賑わいを見せた。何事も「継続は力なり」であり、地域の活性化に繋がる企画が継続することを願うばかりである。
建築設計事務所	住宅の耐震診断等についての業務を行っている事業所等では受注があるようである。	

(4) 県南地域

企 業 関 連	農業関係者	7月に農業用機械の値上げがあり、値上り前に駆け込みの購入契約が増加したが、購入資金を融資する場合に、条件となる年齢制限に抵触し、融資が困難となったケースがある。また、定年退職後に野菜作りにチャレンジしている人が多くなっているように感じる。さらに、各種商品の値上げや電気料金の見直し等により、家計における固定費が上昇しており、自動車の買い替えも中古車が多い。また、イベントなどで配布される無料サービス品等を、他の人のことを考えず、多く持ち帰ろうとする人が増えた。
	製造業（食料品）	10月31日にTX（つくばエクスプレス）の研究学園駅の駅前に大型複合商業施設「iias（イーアス）つくば」がオープンとなる。見た目には景気が良いように感じるが、施設周囲の既存店の売上げが減少するのではないかと不安がある。
	製造業（窯業・土石製品）	物価は上昇しているが、可処分所得は増加していないので、消費を控える傾向にある。
	建設業	見積りの依頼は非常に多くなってきているものの、客に見積書を提出してから決定まで5～7か月掛かるケースが多い。また、取り止めとなるケースも多くなってきている。
	建設業（設備工事業）	地元の設備・土木業者の中には、仕事量の減少により建設機械の維持（機械の管理、車検等）が困難となったため、機械を処分してしまい、仕事のときはリースして対応しているとのことである。
	建設業	公共事業の削減により、工事の受注競争が厳しくなっているように思える。
	金融業	建築資材の高騰から、住宅メーカーの住宅販売価格が坪当たり30千円～50千円位高くなりそうである。
雇 用 関 連	求人広告	これまで販売価格を据置いてきた店の値上げが最近目立ってきている。
	学校就業関係者	教材で使用しているリサイクル鉄を廃棄するにあたり、8月に業者より買取の見積りを取得したが、9月に入ってから、業者からリサイクル鉄の相場が下落したとの連絡があった。これにより、見積価格も急遽変更になり、買取か各が2～3割下がってしまった。
	雇用相談員	少しでも家計の足しにしようと、主婦からの内職の問合せが多い。また、定職持つ男性からも、勤務時間の終了後にできる内職はないかという問合せがある。

(5) 県西地域

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	商店街代表者	私の周りの高齢者の方々は、旅行や趣味の会等を楽しまれており、ゆとりがあるように見受けられる。
	スーパー	「ガソリン価格の高騰で遠方へ外出しなくなった」、「外食の機会が減った」という客の声をよく聞く。
	衣料品販売店	返品に来店した客から、「ガソリン代が高いのにわざわざ返品に来なくてはならないのを何とかしてくれ」と言われた。
	家電販売店	高齢者のみの世帯では、地上デジタル放送対応のテレビ、アンテナ等の購入が難しいようである。また、医療費等の費用が掛かるため、節約をしている人が多い。なお、アパート等の賃貸物件について、新地部物件には入居者はあるだろうが、既存の中古物件には空室も多くなっている。
	自動車販売店	「自分さえ良ければ」という意識を持つ人が多くなり、古き良き日本の連帯感が希薄になってきたように感じている。皆がもっと協力し合って改善に努めれば、景気も少しは良くなると思うが、特に大人達が自分のことだけに精一杯で元気がないように見受けられる。
	和食食堂	皆、この不景気の状況に慣れ、節約も身に付いて、安定してきているような気がする。
	和食レストラン、割烹	家庭において、外食の予算は最初に削減されるものである。客単価が低下し、売上げが減少し、食材等の価格が上昇しているので経営が大変である。この状態がいつまで続くのか本当に不安である。
	都市型ホテル	近隣の飲食店の中には、開店時刻が遅くなり、閉店時刻が早くなっている店もあるそうである。寂しい話である。
	旅行代理店	原油及びガソリン等の価格は若干低下したが、航空機の燃油サーチャージには反映されておらず、海外旅行の申込みの減少が目立っている。
	タクシー運転手	乗客との会話でも「年末になれば多少は良くなるのではないか」という話がある。
	タクシー運転手	アメリカのサブプライムローン問題等の煽りを受け、原油価格の高騰及び物価高による消費者の生活防衛が見受けられる。
	タクシー運転手	乗客との会話では、3か月前と同様に、政治に対する不安。食の安全に対する不安等「何を信じたらいのか分からない」という内容の声が多い。
	ドライブイン	客の商品価格に対する感度が敏感になっており、特売品への反応が非常に良い。
	ゴルフ場	来場者からは「ゴルフプレーの回数は以前と変わらない」との声が聞かれる。低料金化、サービスレベルの向上等、手を変え品を変え営業努力をして集客している結果もあると思うが、先行きが不安である。
	レジャー施設	当施設は、自動車を利用しての来店が中心であるので、ガソリン価格の高騰が来場者の減少につながっているように思える。
	理容店	電車、自転車の話題が多くなった。
	理容店	当店の顧客の中にも、ガソリン高騰により、交通手段を自動車からバイクや自転車に変えた人が多く見られる。
	クリーニング店	石油製品の値上がりが続いている。世の中の景気が良くならなると、お金が流動しない。
	建築設計事務所	現在の景気低迷の状況の中、リサイクル産業の一つである中古タイヤ事業が急成長している。質のいいタイヤが新品のタイヤよりかなり安価である。年配者は金額より安心に重点をおくが、若者はそこそこの質と金額に重点をおく。これからも成長する事業であると思われる。
	企 業 関 連	農業関係者
農業関係者		秋の収穫時期を迎えたが、今年は豊作の傾向にあると思われる。しかし、景気は依然として良くない。当組合では生産資材の高騰による農家経営の圧迫感をどのようにして取り除くかを検討していきたいと考えている。
製造業（食料品）		地元のガソリンスタンドでは、今月に入り、レギュラーガソリンの価格が15円くらい下がった。

(5) 県西地域

企 業 関 連	製造業（食料品）	景気はマスコミ等から流される情報によって左右されている面もあると思う。
	製造業（印刷・同関連業）	投機筋の思惑で諸物価が上下するという現実をみると、資本主義の行く末が心配になる。また、全ての事柄について、「勝ち組」と「負け組」がはっきりしてきているように思う。もちろん、一生懸命努力し、頑張った結果の「勝ち組」の場合は、それは結構なことである。問題はどんなに頑張っても「負け組」の人達である。「敗者復活戦」の道があっても、皆がこれに挑戦することができるだけの強い意志を持っているわけではない。家族、友人あるいは地域が、心ある励ましや行動等で「敗者復活戦」に挑戦する人達をフォローしてやれるような社会になることが望まれる。世の中の価値観が「勝ち負け」より「人間らしさ」を大切にするような社会ができれば、日本も変わるように思う。
	製造業（印刷・同関連業）	大型商業施設の開店が目白押しであるが、人口がそれほど増加しておらず、購買力も上昇していない以上、他の競合する商業施設との客の奪い合いになると思う。特に、中心市街地の商業者は経営が厳しいとの話を聞いた。
	製造業（化学工業）	7月に発売された話題の最新型の高機能携帯電話端末の影響により、国内の携帯電話端末製造企業各社が急遽生産調整に入った模様である。
	製造業（窯業・土石製品）	大消費地である東京方面の動きに左右されることが多いと感じられるので、石材以外の商品の動きと同様にあまり期待できない。
	製造業（窯業・土石製品）	近頃、遠出をするとヨーロッパの自動車メーカーの車種が走っている姿をよく目にする。国産車に比べて、スタイル、デザインが斬新であると感じられた。これから5年先、10年先は国産車も世界市場において苦戦するのではないかと危惧している。我が国では自動車の輸出の増減の影響がすべての業界に波及するので心配している。
	製造業（金属製品）	納期が短くなっている。また、素材経費の上昇により利益が圧迫されている。
	建設業	物価の値上りにより、消費が減退している。ガソリンの高騰により自転車の利用者が増加している。
	金融業	政局が不安定でもあり、足もとの株安傾向にあわられているように暫く景気上昇は、厳しいと思う。
	不動産業	建設業者の倒産により、建設中の分譲マンションで建設が中断した物件が地元でもでた。都心では良く耳にする話だが、まさか地元であるとは思わなかった。
	製造業（印刷・同関連業）	政治を経営と考えたとき、国のトップが明確な羅針盤となって始めて景気等も良くなってくると思う。少しでも早くそうなって欲しいと願わずにはいられない。
サービス業（コンサルタント業）	一戸建て住宅の新築工事現場が全くといってよいほど見られなくなった。今後、ますます建築関係業者は追い詰められるものと思われる。	
雇用	求人広告	地元ショッピングセンターがオープンした。